

12

2003年

組合広報

NO. 444

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	組合は、みんなの力で	総財務副委員長 池田 敏則	1
	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	全鍍連創立 55 周年記念式典・第 41 回全国大会		3
	全国めっき技術コンクール表彰		7
	第 37 回永年勤続優良従業員表彰		10
あなたの予定表	1 月の環研・協組集荷日程ほか		12
	訓練校 1 月授業案内		13
	広報「副支部長座談会」		14
	各支部の運営状況等について聞く		
	訓練校第 35 期訓練生募集		20
	組合環境プロジェクト都議会公明党と懇談		21
	城南電化 ISO14001 認証取得		
	十日会例会「1000 億円を失って知った価値の根源」		22
	十日会忘年会		
	大崎金属日本ユニセフに寄付、訃報、籠利氏活発な音楽活動		25
ピック・アップ	大阪で技道場で伝承他		26
支部通信	城東支部、品川支部、三支部会、城北支部		28
	大田支部、中央支部、足立支部、葛飾支部、葛飾青年部会		
	都内中小企業の景況		40

「組合は、みんなの力で」

総財務副委員長 池田 敏則



まずもって、向島支部から選出された、故石崎勝一氏、梅本喜四郎氏に心よりお悔やみ申し上げます。

組合員の脱退スピードは減速しません。寂しい限りです。これは景気低迷が起因とされますが、これだけではないと思います。銅、亜鉛の重金属に始まり、フッ素、ホウ素の規制、廃業後の土地の汚染と業界を取り巻く環境がますます厳しくなって来ています。環境問題も大事ですが、理論上の数値でやられたのではめっき業界はたまったものではありません。一国民であり、一都民である我々業界が地域に貢献していることも忘れないで欲しいと思います。多摩川にアユが、荒川にスズキがいることも報じられています。身近に迫り来る規制に対応しなくてはならないことは百も承知しています。しかし、組合員の中には、組合がなんとかしてくれるだろうと安易に考えていないだろうか、組合の役員になるまでは、私もそうでした。毎日のように、理事長、副理事長は東京都や国へ陳情を行っています。組合は情報を提供してまた相談に乗ってくれます。しかし、最後は自分の力で、財力で決断し、規制に対処しなければなりません。

日本の戦後を支えためっき業界が生き延びるため、一人一人組合員が頑張らなければなりません。下水道局の人たちには理解してくれている方が多いのですが、規制を作る人たちは現場の苦しみを理解しているのかと疑ってしまいます。これ以上規制を厳しくされ、脱退して行く組合員を増やさないで欲しい。今の事業所には余力も、場所も、備えている所はほとんどありません。それぞれの事業所が生き残らなければ支部も、東京都鍍金工業組合も、なくなってしまいます。

大村理事長日誌



6日(木)関東経済産業局城南処理センター視察

8日(土)川上家結婚式

12日(水)城南支部ホームページ講習会

17日(月)都中央会労働問題委員会
健保組合運営委員会

18日(火)環境プロジェクト第1回会合

20日(木)梅本家通夜

21日(金)梅本家告別式

27日(木)全鍍連常任理事会・理事会

創立55周年記念・第41回全国大会

29日(土)品川支部家族忘年会

11月

5日(水)正副理事長会・理事会

～組合・関連団体行事予定～

1月8日(木)正副理事長都庁挨拶回り

正副理事長会、賀詞交歓会

1月13日(火)城東支部新年会

1月13日(火)城北支部新年会

1月16日(金)中央支部新年会

1月16日(金)向島支部新年会

1月22日(木)全鍍連常任理事会・理事会
会・賀詞交歓会

1月24日(土)西部支部新年会

1月26日(月)技能教育委員会

1月31日(土)訓練校技能照査(実技)

2月3日(火)監事会

2月4日(水)広報委員会

2月5日(木)環境委員会

2月10日(火)訓練校技能照査(学科)

2月12日(木)正副理事長会・理事会

2月27日(金)訓練校成績会議

3月2日(火)全鍍連国際委員会

3月3日(水)正副理事長会

環境委員会

全鍍連環境対策委員会

3月4日(木)全鍍連広報委員会

3月10日(水)全鍍連近代化推進委員会

3月11日(木)全鍍連技術委員会

3月12日(金)訓練校修了式

3月23日(火)訓練校素養調査

4月2日(金)正副理事長会・理事会

4月6日(火)訓練校入校式

4月7日(水)広報委員会

4月20日(火)環境委員会

4月22日(木)監事会

全鍍連総務委員会

第 40 回全国大会決議事項の経過報告

平成 14 年 11 月に開催された第 40 回全国大会では「みんなで実施しよう経営基盤強化事業一元気な企業に育てよう」を大会スローガンとして採択した。本スローガンに関する実施経過は次のとおりである。

グローバル化による国際競争の激化、産業構造の転換、市場重視の経営から中国をはじめとする低コスト国への工場移転が激増し、中小企業とりわけ電気めっき業は経営戦略の転換を迫られている。さらに国の政策は業界ぐるみから個別企業への指導・助成へと変化してきており“やる気のある企業”や“創造的な技術に挑戦する企業”等を支援することに重点が置かれている。元々競争力や経営基盤の弱い中小企業はどうするべきか。

全鍍連は、経営基盤強化事業として、新たな環境規制の対策に伴う「新技術開発」事業等を率先して行った。その一例として、ほう素の排水規制に対応するため、平成 13 年度から中小企業総合事業団の研究開発事業「めっき工程におけるほう素の低減に関する研究開発」に取り組んできたが、平成 14 年度に装置開発を終了し平成 15 年度にはその成果として事業化を図り、開発装置の普及活動を行っている。

一方、全鍍連の主導の下で単独または産・官・学による共同で研究開発に取り組む“元気な企業”による技術開発事業助成金等の採択件数も増加しており、採択各社に共通する特徴は情報収集の高さにある。そのため、全鍍連は各工業組合に補助金情報や政府系金融機関の低利融資の制度紹介をはじめ、問い合わせや相談があった企業に対しては、電子メールなどでデーターを交換しつつ、採択の可能性を高めるための申請書類の書式や提出の方法など具体的なアドバイスを行ってきた。

また、ホームページによる全鍍連の活動状況及び税制、融資、助成金等の中小企業施策、土壤汚染、P R T R 等の環境問題、その他折々の重要な情報については、インターネットを通じて一般への周知を図るとともに、更新を定期的に行い、最新情報を組合員に提供しよう努めた。昨年までホームページを開設した 13 会員工業組合においても、全鍍連同様、組合活動の周知と組合員への情報提供に努めている成果は大きく、経営基盤強化事業実施の効果といえる。

また、情報の正確性や情報格差の是正に努めるため、パソコンの利用だけでなく、機関誌「全鍍連」の編集体制や内容等について全面的に改めた。今までは一方的な記事の提供であったが、組合員企業に読みやすい記事の編集に努め、新たに編集委員会を設置し、同委員会において委員各位が持ち寄った情報により内容の検討を行い、時宜に適した情報を提供している。

インターネットを通じて情報伝達を行う社会が出来上がっているが、全鍍連でもこれに対応した組合組織のあり方をより一層発展させるとともに、各工業組合及び組合員に対してさらなる情報伝達に努めていく。経営基盤強化事業は次年度にも継続することから、これらを通じて元気な企業が数多く育成させることを望んでいる。

第 41 回全国大会宣言(スローガン)

「小さな芽を育てよう」 —小さな企業のイノベーション—

かつて高度成長期とその後の経済情勢の激変にもかかわらず付加価値額、従業者数で見た中小製造業の地位は長期的に極めて安定的に推移するなど中小企業の存在は我が国経済発展に寄与してきた。

しかし近年、国際競争の激化、産業構造の転換等により、大企業による中国をはじめとする低コスト国への工場移転が激増している。そのため昨年の中小企業の業況は、前半に持ち直しの動きを示したものの、その後弱含み、または横ばいとなっており、生産高においては、製造業全規模の水準は、景気の谷であった 98 年よりもいったん回復しているが、依然として大企業と中小企業の格差がさらに拡大しているのが現状である。また多品種少量により需要変動が激しくなり、量産ものは大企業、多品種少量ものは中小企業という分業を形成せざるをえない状況へと転換している。こういったグローバル経済の進展下、「下請」取引といった企業間の垂直連携は崩壊しつつあり、新たな企業組織造りに迫られている。加えて、環境対策として大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動等について、次々と規制化され、特定化学物質を使用する電気めっき業界での対応は急務であり、電気めっき業界にとっては一層苛酷な状況におかれている。

このような環境変化の中で、いかに企業経営を行うかは高付加価値製品開発、製品のコストダウンを実施し、自社の新たな小さな芽を育てること及び産官学連携による知識の吸収や新しい技術の確立、多品種少量分野で一定規模にとどまりつつけるのではなく、小さな芽を大きく育て、新商品開発等を通じて成長を実現しなければならない。そして、それを見事に実現し「再生」した企業が存在する。すでに軌道にのっている企業はその事業を通じて、さらに自社の特異な分野を開拓できていない企業は、独創的な分野の芽を育て、イノベーションを着実に実施し、地道に収益体質を強化することが将来の基盤強化になるものと思われる。

そのためには、自ら対面する市場にあった水準の技術の洗練化等が重要であり、このような「強み」を持つ企業は、イノベーションの創出、雇用の創造等を通じて企業発展の担い手となる存在であり、こうした小さな芽をいかに大きく育てるかが組合並びに全鍍連の課題であると考えている。

業界の情報伝達をさらに速く緻密にして、小さな芽で「再生」を図る企業を育て上げ、他方、一丸となって環境保全を推進し、経営基盤強化と経営革新を図ることが必要である。

このような改革の時代だからこそ、企業の発展と再生を推進するには、経営基盤強化事業による業界の近代化と革新計画により、元気のある企業を育てて行きたい。

全鍍連創立 55 周年記念式典・第 41 回全国大会

大会スローガン「小さな芽を育てよう」を採択

全国鍍金工業組合連合会(笹野不二夫会長)は、11月27日(木)午後2時から芝公園の機械振興会館で来賓、各組代表者多数が出席して創立55周年記念式典及び第41回全国大会を盛大に開催した。記念式典では、長年の全鍍連活動において功労があった26氏を表彰するとともに、全国大会では「小さな芽を育てようー小さな企業のイノベーション」の大会スローガンを採択し、業界を挙げて推進していくことにした。

記念式典は笠間則文総務委員長の司会により、鈴木喜代壽副会長の開会の辞、国歌斉唱、業界関係物故者への黙とうのあと、主催者を代表し笹野会長が「全鍍連は、昭和23年8月に日本鍍金工業連合会として設立した。その後24年11月に全国鍍金工業連合会、47年4月に日本鍍金工業組合連合会に改名し、48年5月に全国鍍金工業組

合連合会となり現在に至っている。55年にわたり先輩諸氏が築いてきた全鍍連は、立派に組織化された。これからも先輩諸氏の名を汚さぬよう一生懸命頑張って輝かしい伝統を守り、次世代に引き継いでいかなければならない。景気がなかなか回復しない中、環境問題は非常に深刻で、我々は技術の研究開発に取り組むとともに、経済産業省など関係方面に業界の主張を聞き取って頂くよう努力している。我々の現実の姿を見てもらうには、データなど数値をもって表すしかない。皆様方の積極的な協力のもとにこの難局を突破していきたい」と挨拶した。

記念表彰に移り、中小企業庁長官表彰が木下義章、熊倉知三郎、栗原敏郎の3氏、経済産業省製造産業局長表彰が相場丈夫、上村豊、井筒昇、上野顕三、小池揚の5氏、全国中小企業団体中央会会長表彰が宮阪東



明、難波正義、笠間則文、川上洋一、三浦修市、島田博雄、木村秀利、荒井亮治の8氏、全鍍連会長表彰が入江宏、神谷文吾、溝口輝明、塚越和夫、野口武、姫野正弘、竹内克弘、菅沼延之、浅下昭彦、新谷哲章の10氏に贈られ、受賞者を代表して木下義章氏の謝辞があり、記念表彰を終了した。

全国大会に移り、はじめに特別功労賞が大阪府立産業技術総合研究所主任研究員の吉野正紀氏に贈られた。吉野氏は平成12年度全鍍連組合情報ネットワーク化事業において情報化特別委員会専門家委員及びワーキング委員会座長として、全鍍連の情報ネットワーク化の基礎を構築、以降も情報通信及びコンピュータ関係のアドバイス・指導などに尽力された。

続いて、組合功労役員表彰として、＜栃木組合＞林直昭(宇都宮タマル工業(株))、田中徹((株)田中鍍金工業)、鳥澤芳明(桑名商事(株))、＜埼玉組合＞矢沢元夫(双葉メッキ工業(株))、＜千葉組合＞増田弘((有)増田鍍金工場)、＜神奈川組合＞島津浩(東洋メタライト工業(株))、戸川俊雄((株)戸川鍍金)、小杉亮(旭産業(株))、＜静岡組合＞松浪通 弘((有)東鋳金工業所)、渡邊正彦((株)中里メッキ)、鈴木安市(旭屋工業(株))、＜岐阜組合＞木下幸雄((株)高砂工業)、津田芳朗(新日本金属工業(株))、＜京都組合＞上野忠明(上野金属工業(株))、池田幹弘(南栄鍍金(株))、＜九州組合＞井手口輝夫(新西工業(株))、吉玉和生(吉玉精鍍(株))の17氏。環境整備優良事業所表彰として＜東北組合＞(株)ケディカ、＜茨城組合＞(有)小野金属工業所、＜群馬組合＞(株)松下、三共(株)、＜長野組合＞大和電機工業(株)松本事業所、＜愛知組合＞(株)サンテック・タケトモ、名古屋メッキ工業(株)、(株)山内メッキ、＜大阪組合＞マツヤマ電機(株)、＜九州組合＞田口電機工業(株)の10社が表彰され、続いて全国めっき

技術コンクール表彰が別掲の通り行われた。

今年秋の叙勲・褒章で、山崎五郎元会長が旭日小綬章、神戸徳蔵東京組合訓練校教頭が瑞宝小綬章、中井正治四国組合元理事長と西垣務愛知組合元理事長が黄綬褒章の栄に浴されたことが披露され、大きな拍手がおくられた。また、先に厚生労働省の「卓越技能賞」を受賞した大阪組合の三和鍍金工業(株)常務取締役 四辻兆盛氏に、卓越した技能者として全鍍連会長賞を贈った。

笹野会長が議長に就いて大会議事に入った。まず前回全国大会の決議事項の経過(別掲)を笠間総務委員長が報告、上野頭三専務理事が今年開催された5ブロック会議の経過報告を行った。本大会宣言案(スローガン)「小さな芽を育てようー小さな企業のイノベーションー」の意見発表(別掲)を由田猛近代化推進委員長が行い、満場一致でこれを採択した。この決議事項は各工業組合、関係官庁、関係団体の協力を仰ぎながら業界の総力を挙げて推進していくことにした。最後に、常任顧問の草間英一、島村周作、石井博、渡邊正勝の4氏による万歳三唱をもって大会を終了した。

4時半から記念祝賀パーティに入り、大村功作副会長の開会の挨拶、笹野会長の挨拶、経済産業省製造産業局非鉄金属課青山市三課長、全国中小企業団体中央会瀬戸実総務部長、日本表面処理機材工業会川島利夫会長の挨拶を頂き、経済産業省製造産業局非鉄金属課野田剛係長の乾杯音頭で祝宴に入った。祝宴は、山崎五郎常任顧問の中締めまでなごやかに行われた。

全国めっき技術コンクール表彰(179 件)

厚生労働大臣賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

明光工業(株) 浅野政義 (愛知)

【装飾クロムめっき部門】

明光工業(株) 浦郷博巳 (愛知)

【亜鉛めっき部門】

宇都宮タマル工業(株) (栃木)

厚生労働省職業能力開発局長賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

(株)ユニゾーン 高木優行 (富山)

【装飾クロムめっき部門】

東京金属加工(株) (東京)

【亜鉛めっき部門】

(有)中島鍍金工業 (九州)

中央職業能力開発協会会長賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

八幡鍍金工業(株) 八幡義一 (東京)

(株)エコー 森本宏 (大阪)

【装飾クロムめっき部門】

宇都宮タマル工業(株) (栃木)

高知精工メッキ(株)メッキ部生産課(四国)

【亜鉛めっき部門】

白金鍍金工業(株) 笹野修弘 (愛知)

緒方工業(株) 藤野智巳 (九州)

日刊工業新聞社賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

(株)ヒキフネ 齋藤大輔 (東京)

(株)ユニゾーン 北村秀和 (富山)

【装飾クロムめっき部門】

平和工業(株) 福島里志 (東京)

清川メッキ工業(株)Aチーム (福井)

【亜鉛めっき部門】

(有)朝日鍍金工場 (東京)

三研工業(株)名古屋工場Aチーム(愛知)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 金賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

旭産業(株) 細川正倫、北村武雄(神奈川)

(株)ヒキフネ 中村和正 (東京)

清川メッキ工業(株)Aチーム (福井)

【装飾クロムめっき部門】

(有)富士友工業所 下平誠 (東京)

清川メッキ工業(株)B チーム (福井)

清川メッキ工業(株)C チーム (福井)

高知精工メッキ(株) 小松開 (四国)

【亜鉛めっき部門】

(有)笹川メッキ工業所 加賀崎英樹(東京)

(有)鈴木鍍金 鈴木啓之 (東京)

硬化クローム工業(株) 河田善則(東京)

(資)東亜鍍金工場 川上隆史 (東京)

(株)ユニゾーン 田口寛 (富山)

池田鍍金工業(株) 田中崇史(大阪)

旭鍍金(株) 谷口真 (大阪)

(株)シミズ 河本和彦 (大阪)

(株)永田商店 永田靖人 (大阪)

松本鍍金(株) 松本人士 (大阪)

(株)太洋工作所 大西拓郎 (大阪)

オテック(株) 宮阪一郎 (大阪)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 銀賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

宇都宮タマル工業(株) (栃木)

(株)ヒキフネ 吉井真介 (東京)

清川メッキ工業(株)B チーム (福井)

【装飾クロムめっき部門】

(株)二村研磨工業所 (愛知)

白金鍍金工業(株) 笹野修弘 (愛知)

(株)ユニゾーン 中山和之 (富山)

(株)ユニゾーン 火爪義一 (富山)

【亜鉛めっき部門】

(株)吉崎メッキ化工所 吉崎心大(東京)

(株)朝日クローム工業所 川上正次(東京)

常木鍍金工業(株) 杉 未規 (東京)

(株)協 和 木村 崇 (東京)

(株)三ツ矢 河内敏宏 (東京)
三研工業(株)名古屋工場Bチーム(愛知)
(有)大仙鍍金工業所 北田雅己(大阪)
(株)永田商店 梅田一久 (大阪)
(株)ユニゾーン 杉本尚人 (大阪)
フソー(株) 田 雄暢 (大阪)
三和鍍金工業(株) 藤川誠也(大阪)
緒方工業(株) 藤崎敏幸 (九州)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 銅賞

【研磨・装飾クロムめっき部門】

スズキハイテック(株)第一製造部(東北)
(株)吉崎メッキ化工所 天野健二(東京)
東京金属加工(株)製造部 橋本幸雄(東京)
東京金属加工(株)製造部 北島達也(東京)
神谷理研(株) 渥美広晃 (静岡)
神谷理研(株) 神谷公彦 (静岡)
神谷理研(株) 清水省吾 (静岡)
(株)二村研磨工業所 (愛知)
白金鍍金工業(株) 笹野恭史(愛知)
清川メッキ工業(株)Cチーム(福井)
浅下鍍金(株) 浅下朋之 (石川)
国重メッキ工業(株) (岡山)
(有)武田鍍金工業所 高岡日出男(四国)

【装飾クロムめっき部門】

スズキハイテック(株)第一製造部(東北)
(株)協 和 (群馬)
旭産業(株) 田浦淳也 (神奈川)
八幡鍍金工業(株) 八幡順一(東京)
三共鍍金(株) 荻宿充久 (東京)
京王電化工業(株) 姫野正弘(東京)
東京金属加工(株)製造部 橋本幸雄(東京)
平和工業(株) 美坂貴史(東京)
(株)吉崎メッキ化工所 遠藤祥鑑(東京)
(株)東電工舎 山田英佐夫 (東京)
(株)ヒキフネ 早坂英雄 (東京)
タカノ(株) (長野)
太陽電化工業(株) 伊藤豪 (愛知)
(有)竹田鍍金工業マルチライン(愛知)

小川工業(株) 栃谷光慶 (愛知)
八幡鍍金工業(株) (愛知)
(株)ハツメック (三重)
浅下鍍金(株) 岡部良雄 (石川)
(株)エコー 森本宏 (大阪)
(株)太洋工作所 日野義明 (大阪)
(有)武田鍍金工業所 (四国)

【亜鉛めっき部門】

スズキハイテック(株)第一製造部(東北)
旭産業(株) 山村俊統 (神奈川)
(株)大協製作所Aチーム (神奈川)
(株)大協製作所Bチーム (神奈川)
(株)ヒキフネ 中村和正 (東京)
(有)ダイヤモンド製作所 名田明日香(東京)
(株)真工社 田中雅人 (東京)
(有)廣石鍍金 佐藤誠也 (東京)
(株)ムラタ 倉田良知 (東京)
ニシハラ理工(株) 金子伸一(東京)
アイテック(株) 田中孝 (東京)
(株)ヒキフネ 齋藤大輔 (東京)
ケミテック(株) 松島昭仁 (東京)
三共鍍金(株) 小林利克 (東京)
増田工業(株) 梅沢昌司 (東京)
足立工業(株) 山田宗成 (東京)
双葉メッキ工業(株) 矢澤一久(東京)
三友電子工業(株) 塩澤雅規(東京)
(株)タイホー 小松雄一郎 (東京)
(株)トウヘイ 東平一成 (東京)
(株)池田車框製作所 菅野信一(東京)
八幡鍍金工業(株) 八幡直人(東京)
京王電化工業(株) 原 務 (東京)
仁科工業(株) 井手薫 (東京)
(株)東電工舎 増田崇 (東京)
(株)大宮鍍金工業 出野裕久(東京)
大和金属工業(株) 塚本泰三(東京)
大日工業(株) 渋谷 晃 (東京)
(株)三ツ矢 武川和仁 (東京)
野上化学工業(株) 安藤大師(東京)

(株)タイホー 川澄卓哉 (東京)
イワキ(株) 折田成男 (東京)
シルバーメッキ工業(株) 河口貴志(東京)
平和工業(株) 美坂貴史 (東京)
(有)山田鍍金工業所 山田隆弘(東京)
木村電化(株) 伊藤聡 (東京)
東日本山一電機(株) 玉川文大(東京)
(有)宏栄工業 高橋英雄 (東京)
(株)トーヨー 平澤拓雄 (東京)
(株)山 田 鈴木重夫 (静岡)
(株)山 田 管理課 桑原正次(静岡)
カナエ工業(株)第2製造課 (静岡)
(株)ダイワエクセル豊橋製造部(愛知)
(株)ダイワエクセル小島・大原チーム(愛知)
三研工業(株)安城工場 天野孝治(愛知)
名古屋メッキ工業(株) 大津秀貴(愛知)
名古屋メッキ工業(株) 萩原達也(愛知)
鈴木鍍金工業(株) 鈴木泰造(愛知)
明光工業(株) 椿野貴敏 (愛知)
(資)寿鍍金工業所 (愛知)
東栄コーティング(株) 小林健治(岐阜)
(株)ユニゾーン 見込義雄 (富山)
浅下鍍金(株) 田端紘志 (石川)
清川メッキ工業(株)A チーム(福井)
清川メッキ工業(株)B チーム(福井)
清川メッキ工業(株)C チーム(福井)
(株)朝日硬質鍍金工業所 大井達夫(大阪)
白光化学(株) 松風嘉弘 (大阪)
アルファメック(株) 野村重之(大阪)
(株)勝栄電鍍工業 勝井清史(大阪)
(株)土井鍍金 土井康巨 (大阪)
(株)三原産業 空本美幸 (大阪)
佐和鍍金工業(株) 小池正人(大阪)
(有)石橋鍍金工業所 石橋佳誉(大阪)
アルファメック(株) 池辺高志(大阪)
(有)原硬質クローム工業所 原英彰(大阪)
フソー(株) 山根健司 (大阪)
(株)サトーセン 田中龍太 (大阪)

帝国技研(株) 地引善次 (大阪)
(株)三和硬質メッキ工業所 本田学(大阪)
(株)三晃鍍金工業所 岡田和夫(大阪)
(株)野村鍍金 大城 誠 (大阪)
(株)モリクロ 善家英樹 (大阪)
(株)ナクロ 武田敏男 (大阪)
清水鍍研材(株) 山下智輝 (大阪)
(株)友電舎 岡田淳介 (大阪)
オーエム産業(株)技術課チーム(岡山)
オーエム産業(株)亜鉛めっきチーム(岡山)
中備メッキ工業(株) (岡山)
(有)チューメックス定金 (岡山)
(株)オート (広島)
新和金属(株)第4製造課 森本浩一(広島)
(株)アサヒテクノ 阿部等 (四国)
(有)武田鍍金工業所 (四国)
緒方工業(株) 瀬口雄大 (九州)
吉玉精鍍(株) 池田美智男 (九州)
吉玉精鍍(株) 尾仲賢司 (九州)
(有)中島鍍金工業 (九州)
(株)ボッシュオートモーティブシステム
素形材製造部調質課 大森留次(賛助)

(注)掲載は組合順(北→南)、同組合の場合は
参加申込順。組合標記にて東京・大阪は訓練
校生を含む。

第 37 回永年勤続優良従業員表彰

東京都鍍金工業組合はこのほど恒例の第 37 回永年勤続優良従業員表彰を実施した。
今年度は大田支部の(株)フジオカ勤続 47 年の伊藤庄七氏をはじめ、22 社 133 名の方々が各事業所で表彰された。

<城東支部>

小石田鍍金工業(株)	25 年	石塚 正義
協伸化学工業(有)	25 年	辻 敏美
〃	3 年	富松 修
(株)田島製作所	20 年	三浦 善弘
〃	20 年	田島紀代子
〃	20 年	小野寺君代
〃	10 年	松丸 次男
〃	3 年	勝見 雄次
〃	3 年	青木 泰衛
〃	3 年	田山 操

<城西支部>

(株)シルベニア	20 年	三村 英機
〃	15 年	岸野 明美
〃	10 年	木下ミチ子
〃	10 年	中川九三子
〃	10 年	永安 裕之
〃	5 年	富岡 岳史
〃	5 年	永安 孝之
〃	5 年	中島 水脈
〃	5 年	大谷 洋
(株)ジンカートセンター	3 年	宍倉 重治
〃	3 年	中原 泰光
〃	3 年	黒瀬 瀬三

<大田支部>

(株)ヒロオ	15 年	野村 幸男
〃	10 年	吉川 誠道
(株)大崎金属	25 年	幸田しず江
〃	20 年	牧門 吉明
〃	15 年	鈴木志津江
〃	15 年	ビクター オム
〃	10 年	佐藤 絹子
〃	10 年	小松 茂美
〃	5 年	鳥海 里奈
〃	3 年	伊藤 一行

大森クローム工業(株)30 年 鈴木 新一

〃	30 年	村山 勝正
〃	30 年	松本 護
〃	20 年	鈴木 茂
〃	10 年	矢島真保呂
〃	10 年	小野 淳
〃	5 年	近藤 大祐
平和工業(株)	45 年	井上 壬生
〃	20 年	宮本 淳一
〃	20 年	阿部末太郎
〃	20 年	阿部 広一
〃	15 年	チュトルン ハウ

〃	10 年	弓野 篤
〃	10 年	望月 英彦
〃	10 年	斉藤 喜春
〃	5 年	宮澤 寿雄
〃	5 年	高 文彦
〃	5 年	ロンチャンドラナス
〃	3 年	森永 英明
〃	3 年	茜谷 夏紀
〃	3 年	木村 倫

(株)フジオカ	47 年	伊藤 庄七
〃	38 年	勝又久仁紘
〃	36 年	勝又 正博
〃	35 年	村山 耕吉
〃	15 年	石田 淳
〃	15 年	北原 貴之
〃	5 年	高原孝三郎
〃	5 年	黒沢 利男
(株)日東化工	34 年	和嶋 弘一
〃	30 年	小林 博

<足立支部>

足立工業(株)	20 年	石川 敏和
〃	10 年	山野 勇
〃	10 年	塚本 賢次



足立工業(株) 5年 斉藤 信一
" 5年 河俣美和子

＜葛飾支部＞

(株)ヒキフネ 30年 宮崎 裕子
" 30年 渡辺 栄子
" 30年 谷沢ノブ子
" 25年 目良 哲夫
" 20年 石川 薫
" 20年 工藤浩二郎
" 15年 早坂 正貴
" 15年 橋本 幸
" 10年 霧生 国男
" 10年 猪狩 誠
" 10年 霧生 翠
" 5年 多田 隆浩
" 5年 片野 昌子

(株)ヒキフネ技研 30年 阿部 栄
" 25年 宇田川清士
" 5年 笠井 丈志
" 5年 岩城 エレイン

太田鍍金工業(株) 3年 河野 崇
大日工業(株) 25年 上村 英人
" 10年 尾崎 仁本
" 5年 鈴木 眞
" 5年 谷口 武士
" 5年 後藤 和良
" 5年 猪本 貴司
" 3年 鷺足 知幸
" 3年 澁谷 晃
" 3年 丁子真太郎

光陽鍍金(株) 30年 佐々木新一
" 20年 千葉 弘男
" 3年 小野美佐子
" 3年 福田 美雪

＜向島支部＞

(株)フクダ 20年 染井 和代
コーポレーション 20年 清水 忠徳
" 20年 樋口万里子
" 15年 白子けい子

(株)フクダ 10年 仙台 達也
コーポレーション 10年 君塚 孝徳

" 5年 長谷川 潤
" 5年 外山 勇一
" 5年 北村 政義
" 5年 木村 陽一
" 5年 池田 幹雄
" 5年 五十嵐正和
" 5年 松尾 厚司
" 3年 佐々木幸彦
" 3年 増田 秀樹
" 3年 小島 佳正

赤城福和産業(株) 10年 沼 多賀子
(株)ヤグチ 10年 青木たか子

＜西部支部＞

(株)吉崎メッキ化工所 30年 高橋 研二
" 20年 新井ハルヨ
" 20年 遠藤 祥鑑
" 20年 松崎 武司
" 20年 天野 健二
" 20年 井上美代子
" 15年 高橋 恵蔵
" 15年 斎藤しづ子
" 5年 平林 清
" 3年 大城 官
" 3年 菅原 隆司
" 3年 浅見 浩
" 3年 金丸美枝子
山下産業(株) 32年 山本幸四郎
" 27年 池田 悦昌
" 26年 加藤 久雄

1 月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	木	元旦			
2	金				
3	土				
4	日				
5	月			城東支部(仕事始め)	
6	火			城北支部	
7	水			中央支部	
8	木	正副理事長会、新年賀詞交歓会		目黒・世田谷地区	
9	金		城南支部	葛飾支部	
10	土				
11	日				
12	月	成人の日			
13	火		大田支部	足立支部	城東支部、城北支部新年会
14	水			西部支部	
15	木		品川支部・大田支部	品川地区	
16	金			葛飾支部	中央支部、向島支部新年会
17	土				
18	日				
19	月		城西支部	向島支部	
20	火		城西支部・城北支部	本所支部	
21	水		中央支部・本所支部		
22	木		向島支部		全鍼連常任理事、理事会、新年会
23	金			葛飾支部	葛飾支部新年会
24	土				西部支部新年会
25	日				十日会新年会
26	月		西部支部	蒲田・大森地区	
27	火		城東支部・葛飾支部	城西支部	
28	水		葛飾支部		
29	木				
30	金		足立支部	葛飾支部	
31	土				

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

1 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～16:40 B:16:50～19:30 C:16:50～20:20)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
9	金	A	はく離① (めっき法)	めっき皮膜のはく離方法 (株)ハイテクノ 鈴木昭一
		C	環境法令① (安全衛生)	環境法規の体系、東京都環境確保条例の解説 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作
13	火	A	はく離② (めっき法)	素地金属及びめっき金属の確認、はく離の化学、皮膜確認。 <u>技能照査説明</u> ハイテクノ(株) 鈴木昭一
		C	環境法令② (安全衛生)	水質汚濁及び水質汚濁防止のメカニズムと法令、排水処理方法等。 東京都立産業技術研究所 小坂 幸夫
16	金	A	ひっかけ治具③ (めっき法)	ひっかけ治具の製作(技能照査実技試験用) <u>技能照査説明</u> 海野鍍金工業(株) 海野吉正、鍍金組合環研 長嶋政人
		C	環境法令③ (安全衛生)	東京都環境保全条例の解説等。 東京都鍍金工業組合環研 志賀 孝作
20	火	A	品質管理① (生産工学概論)	品質管理、工程管理、工程改善、作業標準化、管理図等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		C	環境法令④ (安全衛生)	環境基本法、大気・水質・振動騒音防止対策の総括 【公害防止管理者資格試験】 鍍金組合環研 長嶋政人
23	金	A	品質管理② (生産工学概論)	不良対策6ステップ、不良の確認法、原因の解析法、工程の改善、発生防止等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	塗装 (金属表面処理)	目的、塗装の選定、下地の調整、塗料の種類と成分等。 日本大学生産工学部 大野 茂
27	火	A	電着塗装 (金属表面処理)	原理、長所、短所、カチオン・アニオン電着の機構、電着塗装の性能 日本大学生産工学部 大野 茂
		B	原価管理① (生産工学概論)	品質保証、品質マニュアル事例、国際規格審査登録等の解説 (株)平和工業 内藤 雅文
30	金	A	原価管理② (生産工学概論)	加工高向上対策、標準原価算定法、価値分析等。 (株)平和工業 内藤 雅文
		B	生産管理 (生産工学概論)	ニッケルめっきのめっき時間と膜厚、技能照査実技試験の実施方法の補足説明。 鍍金組合環研 長嶋 政人
31	土	1 日	技能照査実技試験	【技能照査の実技試験実施】 (別途要項による) 東京都鍍金工業組合技能教育委員会、環研

※聴講料は1科目クーポン券3枚、又は7500円です。

広報委員会「副支部長座談会」

各支部の運営状況等について聞く

東京都鍍金工業組合各支部執行部は支部長を筆頭に副支部長、会計、総務、事業部等で構成されている。広報座談会では支部長を補佐する副支部長に、各支部の現況について伺った。特に大きな問題としては、組合員数の減少から支部運営が難しくなり、統合を含めて、今後の在り方を真剣に模索していることや、また支部行事で大きな新年会の在り方などについて問題提議がなされた。

出席者(敬称略)

理事長	大村 功作
副理事長	姫野 正弘
広報委員長	木村 秀利
広報副委員長	神谷 博行
城南副支部長	小谷野英勝
品川副支部長	原 清一
城北副支部長	今泉 好隆
中央副支部長	斎藤 功
足立副支部長	細井 碧
葛飾副支部長	小倉 攻一
本所副支部長	岡本 博司
西部副支部長	柴 太

木村委員長 支部活動では支部長さんと一緒に活動しますから同じ様な意見かと思いますが、次の任期の時には本日ご出席の副支部長さんが支部長になられる支部もあると思います。そういうことも踏まえて副支部長さんのご意見を伺います。はじめに大村理事長、姫野副理事長からご挨拶をお願いします。

大村理事長 今日はお忙しいところをご出席を賜りありがとうございます。広報委員会で副支部長の座談会は初めてだと

と思いますが、木村委員長が言われる様に将来に向けて次期支部長という立場から組合に対してご意見なり支部の現状についてお聞かせ頂き、組合運営の参考にさせて頂きたいと思います。

姫野副理事長 今年度より広報を担当することになりました。みなさんは業界の将来を背負って立ち、業界を引っ張って頂くことが目の前に来ているわけで、今後の組合運営に対して積極的なご意見を出して頂きたい。とにかくみなさんとともにこの業界で生き残っていくために色んな問題に対して前向きに取り組んでいきたい。みなさんのご意見を参考とさせて頂きながら、今後の方向づけを探って行きたいと思いますので忌憚のないご意見をお願いします。



各支部の運営状況

木村委員長 副支部長さんは支部長を補佐する立場にあり、支部長の意向に沿って仕事を進めていると思いますが、その中であって、こういうところはこう思うということがありましたら発表して下さい。

斎藤副支部長 中央支部は若い役員が多い支部です。そのため役員の仕事に負担がかからないようにという支部長の配慮

もあり、役員会の回数を極力減らしています。他の会合等についても、支部長が可能な限り出席し、各役員の負担を軽減しています。その結果



昨年は頻繁にあった役員会が、現在ではFAXを使用するという形になってきました。支部長が前回の座談会で申し上げたように、組合員が減って現在では34社です。支部統合という話がありましたが、この意見に積極的な考えを持っているというのが現状です。

木村委員長 役員さんが若返っているのはいいことですね

今泉副支部長 支部長が大体お話していますが、組合員数が減り、いま50数社で行事も毎年やっていたものを隔年にしよう旅行、レクリエーションもそうですが、大変厳しい時代になっています。



木村委員長 中央支部さんで役員会を減らしていますが、城北さんはどうですか

今泉副支部長 役員会はせめて毎月1回はやろうということで減らしていません。

細井副支部長 当支部も中央支部さんのように小澤前支部長の頃より急激に若返りまして好むと好まざるに関わらず若くなったということで当



初戸惑った面がありましたが役員会にはほとんど全員が出席します。同じ様な年代ですから意思の疎通もよく若い人の意見が通るようになってきました。

原副支部長 当支

部はこの10年来支部員が減らなかったのですが、今年に入って3月に1社、9月に2社10月11月に1~2社やめるという話



が出て、44社が、40社を切るのではないかと心配しています。支部長座談会でも支部の統合の話が出ていますが、私個人の考えとしては統合は致し方ないと思いますが、合併は反対です。支部長もこのままでは仕様がなさだろうと思っているようです。支部事業としては、10年以上前から同じ様な形でやっていますが、場所を変えたり、総会も一泊から都内でやるという形にしまして、新年会は3支部合同で行っています。私の意見は支部長個人には言うようにして、役員会には言わないようにしています。支部長は支部を代表する人間であって、副支部長は単なる補佐ということで、例えば事業に関しては口を出さない、会計にしても口を出さないように心がけています。

柴副支部長 西部

支部ではここ数年世代交代が進んでいるという大袈裟ですが、社長さんの息子さんが学業を終えて会社に戻ってきている話



は聞いていますが、西部支部は地域が広いものですから顔が分からない。何か繋

がりがないと、年1回会うとあの人は誰だろうということになります。私も二代目で、いま一線でやられている方は分かりますが、その息子さんや専務さんはほとんど分かりません。先日も親睦を兼ねてゴルフ会がありましたが、そういうものを催しながら、まず顔馴染になっていくという初期段階の活動をしています。私は突然副支部長をやれと言われまして、正直戸惑ったところもありましたが、他の支部さんと違うところは、私は青年部会長をやっているものですから下の意見が上へ、また上の考えが下にいくという形で風通しが良くなっています。新しいパターンとして面白いのではないかと個人的には考えています。

木村委員長 とにかく組合員さんの中で親睦を良くして、お互いに理解出来る形にしていくということですね。

小倉副支部長 葛飾支部はタンポポ計画を進めており労働基準監督所に対して、支部長と一緒にやっていかないといけないもの



のですから、お互いどこにいるか、連絡を密にしています。支部長も気さくな人ですから、ざっくばらんに付き合い、支部内も和気あいあいとやっています。

小谷野副支部長 かつては城南第1支部、現在城南支部ですが、組合員数がかなり少なくなってきたので役員会をやってもさびしい限りです。行事をやるにも何をやっていいかわからない。年2回くらい暑気払いや忘年会など懇親会を行いますが、出席が悪くて、色んなことを企画してもさびしい限りです。何かを目的として色んな企画を立てれば、情報交換、収集の

ために、出席されるのかなと感じています。例えば、このような不景気の中での仕事の流れやお得意様の流れ、技術の流れなどです。より具体



的には亜鉛めっきのノンクロム化について話し合うから来てくれとか、鉛フリー化のコミュニケーションするから集まって一緒に飲もうよとか、具体的なテーマがあって、仕事に生かせるものがあればもう少し活性化するのがなと思っています。人数が少なくなり、どこまでいったら落ち着くのか、我々年配者より、若い人たちは物凄く不安を感じているのではないかと思います。それに対して組合はどうするのか、全鍍連はどうするのが大きな問題になってくると思う。それについて何らかのアドバイスなり、こういう活動をしよう、こういう技術的な問題をクリアしようよとか、それに向かって活性化されてくるのではないかと思います。

岡本副支部長 本所支部は来年度間違いなく20社を切ることになります。以前から支部長は20社を切ったら支部として限界を超えていると



述べてきましたが、先日も全支部員に本所支部はこのままでは難しいという話をしました。以前から20社を切ったら限界ということで、いよいよ来年度から現実に20社を切ることは確定しました。現在でも支部活動そのものが難しい。実際、

本部、支部の活動で動くのは数名です。私も本部3つ、支部2つの役員をかけもちで、3つ以上というのはざらなんです。すでに支部の運営が難しい状態なので全支部員にこれから本所支部をどうするか方向を決めていきます。

新年会等の支部行事

木村委員長 どの支部さんも組合員の減少により役員選出等で苦慮されていますが、支部長座談会でも同じような話が出ました。西部支部さんは支部と青年部会の関係はどうなっていますか。



柴副支部長 青年部の父親が支部に出ていますので、支部の大きな情報は仕事や食事の時の話を通じて、青年部も大体の流れは分かっていると思います。例えばいま西部支部でタンポポ計画を進めていますが、みんなが理解していないで動く方向を間違えてしまいます。そういう時の意見調整というか、1つにまとめる時に、話を聞く場合に、大先輩ですと構えてしまうところがありますが、ワークッション入ると、友達感覚で話が聞けるということは、理解しやすいのではないかと思います。

細井副支部長 私ども足立支部執行部は約9割が青年部で、私も30年前に青年部に入って、以降抜けることなく、今回倅が入りましたのでやっと抜けられたのですが、現実には青年部が9割を占めて、若い人の意見がそのまま反映されています。

木村委員長 うまく世代交代が進められたのですね。

細井副支部長 うまくというか、やらざるを得なかったということです。新年会について若手から話が出たのですが、近隣支部さんと呼んだり呼ばれたりしていますが、最初に本部の新年会がありますので、その時に役員皆さんを集めて行くわけですから、各支部で行う新年会は支部員のための新年会にしてはどうかという個人的な意見が出ています。

木村委員長 たしかに本部の新年会は役員の皆さんが多いわけで、支部は支部だけの新年会にしたいということですね。

細井副支部長 そうすれば普段出てこられない方も出てきやすいのではないかと思います。やはり議員の先生方や各界代表者の挨拶が1時間近くになると敬遠されます。私どもも出来るだけ短く抑えるようにしていますが、かなり時間がかかってしまいます。それがなければ普段出てこられない方も出てきてくれるのではないかという気がします。

姫野副理事長 私も副理事長を仰せつかって、理事長以下各支部新年会を回らせて頂いていますが、私は西部支部に属し、他支部の方を呼んで新年会を行っているというのは経験したことがありませんでした。各支部の新年会に伺って、近隣支部を招待されて、お客さんが半数くらいになっており、本当の支部員のための新年会ではないような感じも受けました。たしかにお客さんが半分いると、支部員同士うちとけられないことがあるのかもかもしれません。

神谷副委員長 うちも同じです。80名以上集まりますが、お客さんが半分です。たしかにお客さんと呼ばなければ挨拶も支部長、理事長くらいで15分くらいで済み、その方が支部員のみなさんも集まりやすいとは思いますが。

細井副支部長 こういう不景気な時代ですから余計ですが、これまでそういう形で来ていますから、急には変更出来ないと思います。

木村委員長 城南連合支部で新年会を行いますが、城南も先生方や他支部のお客さんはほとんど呼びません。

原副支部長 これまで熱海で一泊の場合が多いのですが、選挙のある年は別ですが、そうでなければほとんどみえないですね。

細井副支部長 支部の旅行会ですが、泊まりですと支部の負担は少なく、逆に日帰りの方が負担が多くなります。日帰りの方が人気もあり、参加者も多くなります。

神谷副委員長 葛飾も旅行、レクリエーションとお金のかかることをやりますが、その分稼いでいます。先ほど中央支部さんが役員会を少なく



しているという話がありましたが、私は三役1人1人の予定表を持っています。誰がいつ空いているかを確認出来ますから、会合を開く時は三役全員が揃います。産業フェアでは青年部を交えて作品作りをします。先輩たちが教えながらやりますから、仲間意識が育って、何かやるよというとすぐに青年部も集まってくれます。誰か亡くなると、役員、青年部からお手伝いすることがありませんかと連絡があるくらい、よい雰囲気になっています。葛飾は総会後の三役会で年間計画を決め、ブロック長会を開いて今年度をよろしく願いますと懇親会を行ってスタートします。

原副支部長 支部の年間行事として総会、環境月間講習会、忘年会、新年会が大きな行事で、また、毎年2～3月頃に講習会を企画しますが、計画倒れになっています。品川支部の忘年会はかつてブロック長さんまでの役員忘年会だったのですが、それはおかしいという話になり、とにかく全員に声をかけるべきで、奥さんも同伴させてはどうかという話になり、何人かは奥さん同伴に反対し、そこで考えたのがお孫さん、お子さんを連れてきてよいということになり、家族忘年会になりました。初めは戸惑いもありましたが、回を重ねているうちに、なごやかな雰囲気になりました。

木村委員長 各支部さんの行事にはそれぞれの地域性があるようですね。これまでの各副支部長さんの話でもっと詳しく聞きたいということはありませんか

斎藤副支部長 原さんが個人的に統合はいいが合併は反対だという話がありましたが、具体的にどういうことですか。

原副支部長 複数の支部が1つになると、旧支部ごとに派閥を作り、その解消のためかなりの時間を必要とするでしょう。本部主導での統合であれば支部役員が個人的に攻撃されることも少ないでしょうから。

岡本副支部長 私どもは今後どういう形にするか毎年考えています。本部直轄、個人的に好きな支部に行って頂くか、解散して個人の自由にするか、いろいろな話が出ています。各支部にはそれぞれカラーがありますので、そういう情報を提供してみなさんに選択してもらうとか、いろいろな方向を考えています。選択肢はいろいろありますが、現在の支部活動は難しいということです。

今泉副支部長 本部は対応を考えている

のですか。

姫野副理事長 各支部さんから意見が出ていますので、副支部長さんの話を参考にしながら、どういう形にしていくか検討していきます。

小谷野副支部長 統合の問題については、1つは支部の人数が少ないうえ、役員会が多過ぎて、時間的制約が出てきます。これに対して組合の体制を変えとか、少ない人数のところは全部の役員会委員会に出なくともよい、主要なこれだけ出ればいいよということをやっていないと、仕事そっちのけであちこち掛け持ちでやらないといけなくなり、おかしくなってしまう。統合が出来なければ組合の会合の在り方を変えとか、何か合理的な方法を検討するよりないと思います。もう1点、健保、年金を含めて、これから負担の問題はどうなるのか、組合員が400社になった時にはこういうビジョンがあるとかいまのうちに検討しないとだめだと思います。そのような場合、企業負担はこうなるとか、みんな廃業しないようお互いに助け合いながら頑張ってほしいとか、若い人が自信を持ってやっていけるような案をいまのうちに検討する時期になっていると思う。そのくらい激変の時代だと思う。いま社会で騒がれている年金問題と同じように、組合そのものが存続出来るかどうか、そういう状況になっていると思います。

木村委員長 中央支部さんはFAXをうまく使って役員会を減らしているという話がありましたが、本部でもそういうことを検討していく必要があると思います。

斎藤副支部長 支部長からFAXが届き、役員全員が出席できる日に○をつけて送り返します。葛飾支部と同じように全員のスケジュールを配慮した上で支部長が

日程を調整して下さいます。

木村委員長 時間も経ちましたので、最後に姫野副理事長にご挨拶、神谷副委員長に閉会の辞をお願いします。

姫野副理事長 貴重なご意見を頂きありがとうございました。我々業界がいろいろな規制を受けている中で、特に土壤汚染問題は資産価値がゼロに近い状況に追い込まれているという中で、若い人が自信をなくしてくるのではないかと思います。やはり事業は生活の基盤であり、儲けないといけない。儲けるためにはそれぞれの会社が智恵と能力を発揮してそれなりの設備が必要になります。そんな中で土壤汚染問題は次の世代に負の資産として引き継がれることは何としても阻止していかなければいけない大きな課題です。環境に対してものが言える業界団体にしていこうと、仮称：環境プロジェクトを立ち上げ、組合委員、学識経験者、専門家を交えて、ものが言えるような業界にしていこうと、今日の理事会で決定されると思いますが、次の世代の人たちが安心して業界を引き継いでいけるような、希望が持てる業界にしていかなければいけないのが基本だと思っています。ただいま副支部長さんから貴重なご意見を頂いて、支部の統合を含めて本部として調整しながら対応して参りたいと考えています。

神谷副委員長 各支部いろいろな悩みがあり、格差もあることが分かりました。支部長会は年2回ほど開いていますが、縁の下の方持ちである副支部長さんも同じ悩みを語り合う機会を持つてはどうかと感じました。次の時代を築くためにも一層のご活躍をお願いします。本日はありがとうございました。

東鍍工組高等職訓校第 35 期訓練生募集

本校の特色

1. 職業能力開発促進法に基づく「めっき技術者養成」の全国初の認定職業訓練校で、専門教育訓練機関として、永い歴史と伝統があります。
2. ものづくり現場で、すぐ役立つ教育訓練をモットーとし、業界で必要とされる各種資格取得への道が開かれています。
3. ものづくり現場での実務知識や豊富な経験をもつ、優れた講師陣により、基礎から応用に至る人材育成カリキュラムの中で、懇切丁寧にわかりやすく教育します。
4. 充実した設備・機器により、基礎実技から専攻実技へと最大限の「実技教育訓練」を取り入れています。
5. 授業内容に、ビデオ、スライド・OHP等の視聴覚教育機器を取り入れ、可能な限り活用し、教育訓練効果の向上に努めています。
6. 教科書・教材のほかに、豊富な資料を用いて、効果的な教育訓練を行っています。

修了生には多くのメリットがあります。

- (1) 技能照査(学科、実技試験)の合格者に対して東京都知事により合格証書並びに技能士補の称号が授与されます。
- (2) 合格証書は、国家検定である技能検定2級の学科試験の免除が受けられます。
- (3) 東京都1種公害防止管理者の資格が得られます。
- (4) 特定化学物質等作業主任者及び有機溶剤作業主任者の資格が得られます。
- (5) 粉じん作業の特別教育修了証(受講者)が交付されます。
- (6) 各種試験器具や測定機器類を、自社の品質管理や生産管理、また技術改善等にご利用できます。(有料)。その他にも、数々の特典があります。

募集概要

募集科目	金属表面処理系めっき科
募集人員	40名(先着順による)
訓練期間	1年間(平成16年4月～17年3月)
訓練日時	毎週 火、金曜日(午後2時～8時00分) 但し実技は8時30分、特別科目は9時20分まで)
入校資格	高卒以上または同程度の学力のある方
費用	年額346,100円 費用納入は入校時、6月末、9月末、12月末の4回に分納します。
募集期間	平成15年12月～16年3月
その他	訓練校の主旨に賛同いただけた方であれば資格は特に問いません。 申込順に授業に支障をきたさない範囲で許可します。 聴講生制度があります。聴講料は有料。

国内留学制度

東京都以外の道府県に所在するめっき事業所に勤めていて通学が困難な方やめっき会社に勤めていないが、めっき技術を学びたい方のために、当訓練校で修学する便宜(東京の組合員事業所に勤務など)をはかる制度です。

無料一日体験入学

入校を検討中だが、カリキュラムの内容や校内の雰囲気を知りたいと希望される方の為の1日体験入校制度です。学科カリキュラムの説明を受けたり、授業参観することで1年間の教育訓練の内容が分かります。個別のご相談もお受けします。

組合の環境プロジェクト 都議会公明党と懇談

東京都鍍金工業組合で新たな環境規制問題等に対応する環境プロジェクト（石川進造委員長）が発足し活動を開始しているが、12月1日（月）午後5時、都議会公明党を訪ね環境問題について公明党議員と懇談した。議員の石井義修幹事長をはじめ鈴木貫太郎、藤井一、友利春久、中島義雄、野上純子の6氏、組合から大村功作理事長、石川進造委員長、川上洋一、菊池忠男、神戸徳蔵、志賀孝作の6氏が出席した。

はじめに大村理事長が組合の環境プロジェクト設立の主旨とメンバーを紹介、石川委員長は、排水規制が厳しさを増しており、新たにハウ素、フッ素等の規制が始まろうとしている。東京の組合員のほとんどが下水道に排出している。東京の業界は節水型で使用水量



を絞っている。狭い東京でいま以上の排水処理に土地を手当てすることはできない。長引く不況のため追加の環境投資が困難であるなど、当面する業界の重要課題を説明した。さらにハウ素、フッ素等の規制問題について意見交換を行い、石井幹事長から「組合の要望を厳粛に受け止めてその実現に向けて努力していきたい。まず勉強会を開いてその上で国へ働きかけていきたい」など力強い言葉を頂いた。

城南電化協組 ISO14001 認証取得

城南電化協同組合（江原一美理事長）は9月19日付で（社）日本能率協会より環境に関する国際規格ISO14001:1996の認証を取得した。団体として環境ISOの認証を取得したのは中央鍍金工業協同組合に次ぐものとなっている。

登録範囲は、表面処理、めっき処理、イオン交換樹脂再生処理、及びこれらの関連する共同排水処理（中間処理業を含む）、並びにめっき材料販売で、認証範囲に含まれる事業所は、組合事務所、共同排水処理場、（株）大沢鍍金工業所、（株）大崎金属本社工場、（有）共栄鍍金工業所、メイホー（株）、平和工業（株）梶谷工場、（有）村上電化工芸社、三明化成（株）城南倉庫。登録日は2003年9月19日で（有効期限2006年9月18日）、登録番号はJ

MA QA-E 426。

同協同組合の環境方針は、創業以来の基本理念に基づき、(1)環境に関する法律を守り、汚染の予防につとめる。(2)組合全体で、地球環境への負荷を継続的に軽くするためシステムをつくる。(3)工場内の作業環境をよくし、周囲の美観、快適さを改善する。(4)環境目的・目標を設定し、行動計画に基づいて実施の上、定期的に見直しをする。(5)環境方針は文書化して全従業員に周知徹底させる、などである。この環境方針は同組合のホームページで一般公開している。特に環境に対する要求が国際的に厳しさを増している今日、時代の要請に応えるべく、今後はこのISO14001による環境マネジメントシステムを軸に据えて組合活動を行っていく方針である。

「1000 億円を失って知った価値の根源」

十日会(菊地利博会長)は 11 月 10 日(月)午後 7 時からめっきセンター会議室で例会を開催、(株)ツカサ代表取締役社長の川又三智彦氏が、「1000 億円を失って知った価値の根源」を講演、会員 36 名が聴講した。

太田幸一幹事の司会により、菊地会長は「あいにくの天気であるが、多数の参加を頂き感謝申し上げる。昨日は衆院選があり、夜遅くまで選挙速報をみていた。(株)ツカサ社長の川又先生はテレビコマーシャル等でよく知られているが、不動産業のかたわら企業支援、講演など様々な活動をしており、十日会の講演も快諾して頂いた。どきっとするテーマであるが、貴重な体験について話をお聞きしたい」と挨拶、川又氏の講演に入った。以下講演概要を紹介する。

配布資料の「日本の金満家 63 人」は 1988 年、バブルピークの 1 年前に週刊現代に掲載されたものである。その中に私の項目があり、この時の私の資産総額が 1000 億円と出ている。当時ウィークリーマンションを始めて既に借入金で 1000 億円だったが、借金して買った時の土地、建物の評価額が 2000 億円とも 3000 億円とも言われていた。差し引きどう少なく見積もっても 1000 億円は下らない、とランキングされた。しかも借金して資産をつくった会社は株式会社ツカサでもウィークリーマンションツカサでもなく、以前親から引き継いだ街の不動産会社だった。ツカサ建物管理有限会社という正式名称で、資本金 500 万円の個人会社で



ある。実質的な個人で興銀、長銀、日債銀、三井、三菱などから 1000 億円以上のお金を借りたのは、後にも先にも私だけだと思う。大手銀行から有限会社との取引はお宅が初めてといつも同じことを言われた。資本金 500 万円の有限会社でも 1000 億円以上のお金を借りられる実績を作った。その当時私も大富豪だったが、私を除いた 62 人はそれぞれ年収 5 億、10 億円、田園調布の高級住宅に住み、大富豪に相応しい生活をしていた。私だけは年収 900 万円、借地 28 坪の住まい、当時から現在も軽自動車しか乗らない。生活そのものはごく普通のサラリーマン並みの生活であるが、その当時大富豪であったのは事実である。

それが「ある日突然」という言葉通り、90 年 3 月 27 日に大蔵省の通達が各金融機関に回った途端に、今後一切不動産屋に金を貸すなどとなった。それから数年で借金はピーク時に 1400 億円を越えた。にもかかわらずバブル崩壊前は 3000 億円とも言われた資産が 10 分の 1 に減った。バブル時はプラス 1000 億円だった資産が数年してマイナス 1000 億円になり、大体 2000 億円を失う体験をした。

人間はこういう体験をして初めて目が覚める。昔から人間本当に物が考えられるのは3つあると言われている。1つは死ぬような病気を体験する、2つめは会社を倒産させる、3つめは何かの理由で投獄されるとか、そういったことを体験しないと、本当にものを考えられないと思う。私は2000億円を失ったお陰で考えられるようになった。

そういう体験をさせられた結果、94年の中頃から時間が取れてまず経済に関する本を読みあさった。半年で300冊ほど読んで、まずわかったことが、驚いたことにバブル最盛時の86年、87年の段階で、日本のバブルは崩壊するとか、銀行が3分の1が消えるというタイトルの本が既に出ていた。これら本の中には、その後起きたこと、起きつつあることが全部書いてあった。何でこれら本を読んでおなかつたのかと思った。世の中には誰もが予測できなかったことがある日突然起こるということはまずない。バブルの崩壊は十分に予測されていたし、ただそれを読まなかっただけである。

半年間で自分なりに納得できるような経済の流れを理解した後に、勉強すると段々見えてくるものがある。今起きていることは過去の結果として起きている。これから先何が起きるかが大事であると思うようになった。そこから、将来を見るためにはどういうものを勉強したら良いか、将来は現在起きつつあることの結果として起きるのだから、現在起きつつあることを正確に把握することが大事である。それで始めたのが新聞は日経はじめ6紙に全部目を通し、それ以外にダイヤモンドや東洋経済、日経ビジネスの経済誌を中心に週刊誌を含めて20数誌に目を通す。それらを読んでいくと、ひと

つひとつの記事は点でしかない。皆さんも新聞やテレビ、特に経済関係のニュースをチェックしていると思うが、ただその日その日で忘れてしまう。私がある日チェックした経済情報をピックアップした「電話で聞け経済情報」を毎日インプットしている。主にこれは私が主催している「ワンワンクラブ」という勉強会のメンバーのために作っているが、一般の方でもダイヤルQ2で聞けるので、興味のある方は聞いてみて欲しい。百円で3日分聞ける。今日は日経の一面トップにこういう記事が出ている、朝日の何面にはこういうことが書いてある。これに関して私はこう思うと、私が勝手に選んだ記事についてのコメントを3分間出している。これに使った新聞切抜きを翌日、大きい小さいに関係なく、全部コンピュータに取り込んでA4判にプリントアウトすると1ヶ月に10数センチ貯まる。この中からさらに、これはと思って選んだ記事を縮小版にまとめ、月1回勉強会を開き、なぜ私がこの記事を選んだのかの解説を載せている。

このように、日本経済について時系列的に線を引いて並べてみると、そこにははっきりと絵が出てきた。先が予測出来るようになった。ただし1週間後の株価がどうなっているとかはわからないが、より大きな流れのなかで、この半年間、日本経済でどういうことが起こったのか、どこの銀行がおかしくなるとかはみんな書いてある。さらに中長期的に見て2、3年後にどういうことが起きてもおかしくないかということも分かってきた。

■十日会

忘年会

十日会(菊地利博会長)は12月10日(水)午後7時から上野池之端の水月ホテル鷗外荘で会員34名が出席して忘年会を行った。同ホテルの敷地内には森鷗外の旧宅があり、鷗外の文壇デビュー作「舞姫」を執筆した部屋「舞姫の間」で京懐石料理を味わいながら、文学の香りとともに十日会の1年を振り返り、来年にむけての活力を養った。また、同ホテルには天然温泉があり、早目に来た会員が入浴を楽しまれた。

斉藤晴久副会長の司会により、菊地会長は「暮れのお忙しい中を会員多数のご出席を頂き感謝申し上げます。この案内にも記したように、この部屋は森鷗外が舞姫を書いた部屋だそうで、私は文学は分からないが、後ほど女将からこの部屋の由来を話して頂けることになっている。

早いもので4月に2期目の会長を仰せつかって、お蔭様で何とか年末を迎えることが出来た。当社のお客さんがこの1年の間に海外へ生産を移し、当社の売上が激減して毎日つらい思いをしているが、十日会例会で福井先輩が仕事が減ったときにゴルフのシャフトの仕事が入り、規格の厳しい手間のかか

る大変な仕事であったが心を込めて仕事をしたという話があり、私もその話を思い出しながら頑張っている。そういうことで一番憂さがたまっているのは私だろうと思うが、今日は憂さを晴らして来年に向けて活力を養いたい」と挨拶をした。

八幡順一元会長(組合副理事長)は「町会では若手だが、十日会では加入年数から長老クラスになった。来年に向けて頑張っていこう」と、乾杯の音頭をとった。懇親会は永田一雄元会長の中締めまでなごやかに進められた。

ホテルの女将の話によると、この家は赤松男爵家で、赤松家の長女が明治22年森鷗外と結婚、翌23年1月3日に鷗外が舞姫を発表、文壇にデビューした。従って森鷗外文学の発祥の地と言われ、それを記念してホテル中庭に舞姫、於母影の文学記念碑がある。またこの家は宮大工が長年のくुरいを計算して建てた家で、118年経て現存している。



(株)大崎金属 厚志の一部 日本ユニセフに寄付

(株)大崎勤続(大田支部・吉川進社長)は(故)吉川弘二氏の葬儀(10. 22)に際しての厚志について個人の遺志にそって一部は(財)日本ユニセフ協会に寄付された。(財)日本ユニセフ協会から「この度の貴重な浄財は早々当協会からユニセフ本部に送金し、開発途上国の子どもの生命と健康を守り、教育の普及のために有効に使わせて頂くことをご報告申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます」との礼状が同社に送付された。

訃 報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

岩城謙太郎氏 (メルテックス(株)創業者、イワキ(株)元会長)かねてより病氣療養中のところ11月19日死去、83歳。告別式は25日午後1時から文京区大塚の護国寺桂昌殿で行われた。また、お別れの会を12月17日午前11時から丸の内のパレスホテルで行う。葬儀委員長はイワキ(株)社長の岩城修氏。

高橋英治氏 (埼玉県組合元理事長、全鍍連顧問)12月4日死去、72歳。告別式は8日戸田市のセレモニーホール熊木会館で行われた。喪主は長男の高橋樹氏。

植木正男氏 (品川支部・(有)植木電工業社長)12月12日午前8時50分、虚血性心疾患のため死去、66歳。告別式は20日午前9時より西五反田の安楽寺で行われる。喪主は植木もと様

籠利氏 活発な音楽活動



めっき業界にあってドラマーとしても活躍する籠利達郎氏 (向島支部・(有)籠利鍍金工業所社長・広報委員)の音楽活動が活発で11月中には都内及び周辺地で計7回のライブをこなした。籠利氏は、池田美和子カルテッド、MKQ、CGクラブ、布施真一郎クインテッド、斉藤鋭クインテッドなどに所属し、各地のライブコンサートで演奏しているが、去る11月24日(祝)には手賀沼を抱える沼南町中央公民館大ホールで斉藤鋭クインテッドとして出演、70名の観衆の前に「小さな花」「慕情」など13曲を演奏し、盛んな拍手を受けた。めっき業界からも菊池忠男常任理事が激励に訪れた。籠利氏の音楽活動は11月にとどまらず年内一杯スケジュールが埋まっており、精力的に音楽活動を続けている。



東大阪で技道場で伝承

(日刊工業新聞 03.11.4)

東大阪商工会議所(地引啓会頭)と東大阪市は大阪府の協力を得て、04年秋にもクリエイション・コア東大阪(東大阪市内)内に技能伝承センター(仮称)を開設する。推進母体として民間非営利団体(NPO)の基盤技術伝承鶴会(仮称)を設立して切削や板金、プレス、メッキなどの熟練技能者を教育する。基盤技術の継承が狙い。産学官の連携で東大阪の地域振興と国際競争力の向上を目指す。

銀鏡塗装事業を拡大

(日刊工業新聞 03.11.4)

アドバンス(埼玉県坂戸市、櫻井晃社長)は、メッキに代わるコーティングである銀鏡塗装事業の拡大に乗り出す。全国を9ブロックに分け、各ブロックごとに複数のパートナー企業を募って地域密着型の普及を図る。一方、海外では、年内をめどに米国に合弁会社を設立し、来年初めから米国市場の本格開拓に取り組む。同社の銀鏡塗装技術は、従来の銀鏡塗装の色が出ない、変色する、はがれやすいといった弱点を、さまざまな工夫により解消し、塗装でメッキ並みの光沢のある仕上げが得られるようにした。

銅フリーメッキ技術確立

(日刊工業新聞 03.11.7)

柿原工業(広島県福山市、柿原邦博社長)が確立したリサイクルできる銅フリーメッキプロセス技術を使った製品が、国内自動車メーカーの外装品として採用されることになった。このため約1億5000万円を投じて大量生産ラインを設備する。ラジエーターグリルで月間4万台分の生産が可能となる。銅フリーメッキ技術は下地

に銅を使わないマテリアルリサイクルの容易な樹脂メッキ品製造方法。現行の樹脂メッキ品は樹脂と金属の複合材料のため、リサイクルしにくく廃棄処分されるのが通常。だが、この技術は銅メッキが含まれていないため、高い分離効率でステンレスの材料や同じメッキ品などに再利用できる。

表面処理鋼板耐食評価で試験法

(日刊工業新聞 03.11.11)

JFEスチールと日立製作所は10日、家電製品に使うクロムメートフリー表面処理鋼板の実際の利用環境での耐食性が評価できる試験法「ACTE」を開発したと発表した。従来の耐食性試験では、塗装鋼板や化成処理鋼板といった表面処理鋼板の腐食の進み具合が実環境のものと違うと分かったため。新手法では実環境に合わせ、人工海水を使ったり、乾湿を繰り返したりして、鋼板の腐食を再現。鋼板の耐食性を適正に検証する。

鉛レス合金生産月600t体制

(日刊工業新聞 03.11.13)

サンエツ金属は04年3月までに、鉛レス合金の生産能力を現在の3倍程度の月産600トン体制に拡大する。06年7月から欧州では鉛、カドミウムなどの有害物質について電気・電子機器への使用が禁止されるため、電気・電子機器メーカーが鉛レス合金の採用を増やしていることに対応するのが狙い。このほか環境対策に取り組む国内の自動車メーカー向けにも販売拡大を見込む。

シミズが脱クロム化

(日刊工業新聞 03.11.24)

シミズ(大阪市東成区、清水喜芳社長)は欧州危険物質使用制限指令(EU指令、RoHS)などに対応したアルミ製品の下地表面処理剤として、有機酸系のクロムフリー化成処理剤「ALメイト」を開発、受注を開始した。5000系、6000系とい

ったアルミ合金を中心に、アルミダイキャスト製品などにも適応、耐食性や塗装密着性が向上する。価格は六価クロム含有の従来品より若干高めを設定した。ALメイトは水酸化アルミを主体に腐食抑制成分などを加えたもの。

有機性廃水電気分解で無害化

(日刊工業新聞 03.11.25)

三菱重工業は電解脱窒素装置を組み込んだこれまでにない有機性廃水処理システムを開発、受注活動に乗り出した。窒素化合物を含む有機性廃水を電気分解で無害な窒素ガスに転換、放出するシステム。既存のし尿処理システムに同システムを組み込み、従来の生物学的脱窒素方式の半分のコストで実用化できる。し尿処理場での窒素総量規制が始まり、また合併浄化槽の普及で浄化槽からの汚泥混入により窒素量が増加する方向にある。こうした問題の解決のため、三洋電機と共同で開発した。

マグネ合金膜硬度鉄鋼の3倍

(日刊工業新聞 03.11.26)

東京大学先端科学技術研究センターの近藤勝義特任助教授と栗本鉄工所は、鉄鋼の3倍の高硬度とステンレス鋼より数段高い耐腐食性を持つマグネシウム合金膜を開発した。バルク(塊状)の製膜材料を、固相反応合成によるマグネシウムシリサイド化合物としたのがポイント。軽量だが耐腐食性が弱いアルミニウム、マグネシウムの航空機・医療機器部品や、製品寿命を伸ばしたい各種配管の表面処理に利用が期待できそうだ。

LGメッキ製品

(日刊工業新聞 03.12.1)

アルテス(大阪市福島区、増田哲哉社長)は、独自の1浴法溶融亜鉛-アルミ合金メッキ製品の本格受注、販売に向け、滋賀工場(滋賀県甲西町)に市場開拓室を新設した。すでに納入実績がある高速道路の高欄基礎ボルトや中部国際空港

基礎工事関連の保護管用金具などに加え、防弦材用基礎ボルト類やケーソン用金具、海釣り公園のグレーチング、緩み止めナットなどの新規製品の提案を推進し、受注拡大を図る。

土壌浄化ビジネス

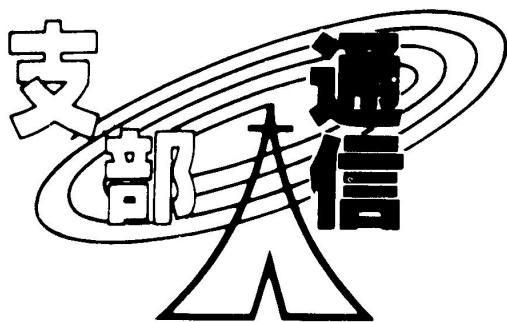
(日本工業新聞 03.12.1)

日立建機は、土壌浄化ビジネスを本格化する。今年2月に施行された「土壌汚染対策法」により、全国で土壌・地下水浄化関連の市場が拡大するなか、給油所やクリーニング工場跡地など、主に中小企業が保有する比較的規模の小さい土地の浄化に的を絞って営業活動を展開する。ゼネコン(総合建設会社)をはじめとする競合業者と差別化した戦略により需要を囲い込む。地域の工事業者との連携も視野に入れ、三年後をめどに、数十億円規模の事業に育てたい考えだ。

片野鍍金が三価有色処理法

(日刊工業新聞 03.12.10)

片野鍍金工業所(東京都日野市、片野良忠社長)は、三価有色クロメートで耐食性、色を六価クロメートと同等に調整した処理法を実現し、受注を始めた。スムーズに六価クロメートから移行ができるという。六価クロメートに含まれる六価クロムの使用は、自動車メーカーなどを中心に削減傾向にあり、これに代わる処理法の開発が急務となっていた。開発した三価有色クロメートは、六価クロメートの色に酷似した黄色で処理液温度が20-25度C。常温処理が可能で、とりわけ夏場の冷却コストを抑制できる。六価クロメートは金属表面処理に広く使われてきたが、毒性が強いため有害物質とされている。環境破壊や人体への影響の懸念から、欧州ではすでに規制された。同社ではこれまでの開発過程でも六価クロムを使用しておらず、薬品メーカーなど2社の分析によって処理後も六価クロムが検出されないことがわかった。



■城東支部

第5回産業ときめきフェアに出展

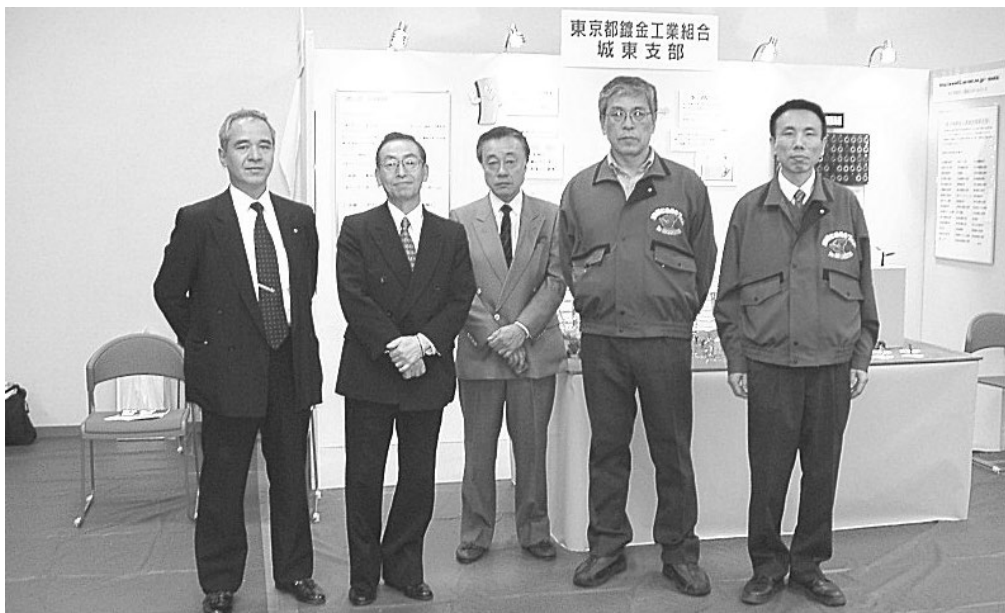
第5回「産業ときめきフェア in EDOGAWA」(江戸川区、産業ときめきフェア実行委員会の主催)が11月21～22日(金・土)、都営新宿線船堀駅前のタワーホール船堀(江戸川区総合区民ホール)で行われた。副題「キラリと輝く江戸川の企業展」とあるように、区内製造業を中心として120社以上が一堂に会して製品展示・技術力を紹介し、ビジネス交流、企業の活性化をはかることを目的としている。

城東支部(遠藤清孝支部長)は毎年同フェア

に展示参加し、本年もめっきによる森のコンサートをイメージした作品を展示し、めっき工業の重要性をPRした。

展示品は、既製の金属製品に各種めっきを施したもので、トランペット、オーボエ、フルートなどの演奏者を大勢の森の妖精たちが取り囲んで、森のコンサートをイメージしたメルヘンの世界を表している。子供達にはかわいいキャラクターに人気があり、金曜日には黄色の帽子をかぶった小学生が大勢社会科見学に訪れ、メルヘンの世界を見入っていた。また、壁面のパネルでは「なぜめっきが必要なのでしょうか。外観を良くしたり、素材を錆びさせないようにしたり、素材にない機能や性質を与えたりするからです。またリサイクルにも一役買っています。めっきすることで摩耗で失った分を補い再度使用する状態にします」とめっきの役割、重要性をPR。その他、めっきの種類、めっき工程、めっきサンプル集、組合員事業所紹介などがディスプレイされ、来場者の関心を集めていた。

展示コーナーには八幡副理事長、木下常任理事、遠藤支部長が案内に立ち、来場者の説明に当たるとともに、激励に訪れた組合本部役員、各支部役員の接待に当たっていた。



■品川支部

家族忘年会開催

品川支部(藤田直人支部長)は11月29日(土)午後6時から高輪プリンスホテルさくらタワー2F「コンファレンスフロア」で支部員家族48名の参加を得て家族忘年会を開催した。

植木謙一事業部長の司会により、藤田支部長は「昨年は城南連合支部30周年がありこの家族忘年会を中止したところ、家内からも文句を言われ、本年は経費軽減を図りながらも例年に近い形で開催することにした。また、浅川さんのお骨折りにより広い会場をとって頂いた。本日はお隣の城南支部から理事長、常任理事、支部長にご臨席を頂いたが、これから支部員が減少していく中で、隣接支部と仲良くしていきたい」と開会の挨拶をした。

大村功作理事長は「本日はお招き頂きお礼申し上げます。私も孫が5人おり、家

族会が大好きである。お孫さんがいると雰囲気の違い、心が安まることもあり、私も楽しみにしていた。いま藤田支部長から話があったが、私が属している城南支部も支部員が少なくなり、いずれ合併してもらうことになると思うが、本部でもそういう話が出ており、近い将来、こういう会が一緒に出来るようになると嬉しいと思う」と挨拶をした。

佐藤二郎相談役は「私もこの会を楽しみにしていた。年々お子さんが大きくなり、女性は綺麗になっているが、男性は働き過ぎか分からないがくたびれてきたようである。男性に頑張ってもらいたい」と述べて乾杯音頭をとった。

食事を取りながらごやかな歓談が続いたあと、恒例のビンゴゲームが、お子さん、大人、合同と分かれて行われ、子供には色々なオモチャ、大人には商品券、残念賞にも商品券が贈られ、楽しいひと時を過ごした。定刻9時に小倉芳夫相談役の中締めにより会を終了した。



■城北、中央、足立支部

三支部会

城北支部(篠根健一支部長)、中央支部(小嶋摂郎支部長)、足立支部(永田一雄支部長)で構成する三支部会が11月26日(水)午後6時から上野の東天紅で開催された。

今回は中央支部の幹事により進められ、斎藤功副支部長の司会により、小嶋摂郎支部長は「お忙しい中を多数のご参集を頂き感謝申し上げます。みなさんは色々な席で顔を合わせる機会はあると思うが、私ども若手は多用なことからゆっくりと先輩と話をする機会も少ないと思う。本日はゆっくりと親交を深めて頂き、各支部間、世代間の融和が図れば、それに勝ることはないと思う。よろしく願い申し上げます」と挨拶をした。

篠根健一城北支部長は「相変わらず景気が悪く、みなさんも何かとご苦労が多いかと察し申し上げます。水質規制、土壌汚染問題など私たちにとって厳しい環境行政が行われている。たしかに地方へ行くと、きれいな自然が残されているのは良いが、その土地にあった環境行政を求めていく必要があるのかと思っている。自然を守るのも大事だが、私たちの産業も守っていかなければならない。私たちもただ黙っていていいのかとつくづく感じている。諸先輩がこの三支部会を作って頂き、本日は間部副理事長もおり、私たちの切なる願いを本部に届けていきたいと思う。支部員の声を集めて本部へ届けていきたいと思っている。三支部のみなさんのお知恵を拝借しながら、私たちが立ち行くように協力していきたい」と挨拶をした。

永田一雄足立支部長は「21世紀は環



境の世紀と言われているが、我々有害物質を扱うめっき工場にとっては大変厳しい状況である。国民として、美しい国土を残し、きれいな川、空気にしたいのはやまやまだが、かと言って今の規制は余りにも過酷なものとなっている。垂鉛の規制の動きのように、水生生物を守るために我々を殺すというのは全くナンセンスである。今後めっき工場が成り立っていかなくなるのではないかと心配している。私はどんな状況でもプラス志向でいきたいと思うが、こう厳しくなると、乗り越えても乗り越えても次から次へと難問が立ち塞がり、個々の企業ではどうにもならない問題が山積している。三支部で協力しあって我々の仕事が成り立っていくように声を大にしてやっていきたい」と挨拶をした。

次に、中央支部の中村建輝総務、城北支部の今村和則総務、足立支部の石川芳英総務から支部の現況報告が行われた。

間部健太郎副理事長は「今期より副理事長を仰せつかるのにあたり、城北支部の鈴木先輩より説得を頂き、一つ組合の為に一肌脱いでみると気合いを入れられ、足立支部の小澤さんから三支部で応援するからいわれ、有り難く思っている。引き受けた以上はしっかり、組合、組合員のみなさんために努力するつもりで、今後ともご指導ご支援をお願い申し上げます。景気の低迷が続き、色々な団体が解散休会しているが、我々の老後をみてくれる厚生年金基金も各地で解散の憂き目にあっている。世の中どうなっているのかという感じであるが、この三支部会はみなさん一堂に会して元気のある会だと思っ

ている。各支部長の挨拶、みなさんの報告を聞いていると意義深い会であると思う。世代交代も進んでいるが、この三支部会を継続して、今後も益々発展させていきたい」と挨拶をし、乾杯音頭をとった。

懇親会に入り、中央支部の新井富保副支部長、城北支部の大和田昌宏総務、足立支部の細井碧副支部長がそれぞれの出席者を紹介。懇親会は、下平誠常任理事の中締めまでなごやかに進められた。

当日の出席者は次の通り

(順不同、敬称略)

城北支部	中央支部	足立支部
野上 榮一	東松 国雄	永田 吉輝
海野 吉正	内山 弘一	小澤 栄男
成瀬 勝正	間部健太郎	永田 一雄
平野普三雄	下平 誠	細井 碧
篠根 健一	小嶋 摂郎	磯村 博明
今泉 好隆	新井 富保	石川 芳英
高松 俊和	斎藤 功	内山 昇
野上 敬	横井 紀一	松井 直巳
田村 卓也	堀江 清	豊田 金造
穴戸富士夫	石井 徹夫	
茅野 一彦	中村 建輝	
大和田昌宏	野村 健	
今村 和則	堀米 清	
須永 操		

■城北支部

環境管理強化月間講習会

城北支部(篠根健一支部長)は10月23日(木)午後6時から支部主催による平成15年度環境管理強化月間の講習会をサンパール荒川4階会議室にて開催した。当日は支部員42社43名の参加を得た。下水道局北部第一管理事務所のご協力を得て、岩村清文業務課長、福島悠水質規制係長、梶原久廣水質規制次席のご出席を頂いた。

森環境委員の司会により開会の辞が述べられ講習会が始まった。

まず、篠根支部長から挨拶があった。「毎日のお仕事お疲れの後、環境管理強化月間の講習会にご出席頂きありがとうございます。また下水道局北部第一管理事務所、岩村課長様、福島係長様、梶原様にはお仕事を終えた後にお運び頂きありがとうございます。さて、景気の方はまだまだ相変わらずですが、環境を守る事も大切です。排水の規制については処理方法、コスト等で可能なものは対応し、そうでない物は出来ないと真摯に申し上げて協力して対応策を見つけていきたい。また、本部にも皆様のご意見を持って行きたいと思えます。土壌汚染においても我々にとって重大な問題でありますので、特に関心を持って行きたい。焦らずしっかりと情報を収集して頂きたい。今日は環境科学研究所の志賀所長様より土壌汚染のお話をさせて頂きます。参考にさせていただいてこれからの会社経営また将来を見据えていただければと思います。」

次に岩村業務課長よりお話を頂いた。「東京都鍍金工業組合城北支部の皆様には、日頃東京都の下水道事業にご協力を賜り、この場をお借りしてお礼申し上げます。下水道の水質規制については年々強化されつつある訳ですが、来年の7月にはホウ素、フッ素の暫定



(上から下水道局の方々、組合員、排水集荷ブロック長感謝状の贈呈)

基準が解除されるという予定になっており、非常に環境が厳しくなってくる状況です。まず、下水道局の水質規制は何をしているのかという事についてお話をしてみたいと思います。下水道の処理場には微生物がおり処理を行っているのですが、有害物質によって死なせないという事を第一に考えて取り組んでいます。その為に有害物質や重金属類を下水道

幹線に流入させないということです。また、施設内で職員が作業を行う為有毒ガスの発生をさせない。そして、強い酸などの為に下水道施設が腐食してしまう事から流入させない。それから油、固形物等で詰まらせない。これらの事を目標に水質保全、下水道施設の維持管理取り組んでいます。

また、今年3年目になりますが「油・断・快適・下水道、下水道に油を流さないで！」のキャンペーンを10～11月の2ヶ月間で行っています。ご協力を頂きたい。

今年の2月に城北支部の役員会に出席をさせて頂き、昨年11月に高濃度シアンが尾久幹線に流入したという結果を報告させて頂きました。その際、ご意見の中に流入のたびに基準値を守っている事業場に立ち入りをされるのは迷惑であり、早期に発生源の特定をして頂きたいという事がありました。一部の違反者の為に大勢の方が迷惑を被るというのは是正していかなくてはならないと考えています。現在シアンモニターというシアンを感知する機械が尾久と三河島のポンプ場に2台ありますが、そのモニターに高濃度シアンの流入が記録された場合、速やかに事業場に伺い聞き取りをしたいと考えました。水質規制の取り組みは、業務課の水質規制係で行っている訳ですが、北一の他の課のポンプ所、出張所の職員にも業務課と一帯となって調査に出向くことから、取り組みの体制を6月に作りました。その出動訓練を11月14日に北一事務所内で行います。

都の環境対策で、お台場海浜公園海域の一面の海水を有明処理場に設置した浄化プラントでろ過し、子供達が水辺で遊べるようにするといった事が世界的な話題になっています。こういった環境行政が注目を集めているという事です。今後とも下水道事業にご協力を頂きたいと思います。」

続いて、福島係長より現況の報告を頂いた。「まず、情報の提供のお願い事があります。

シアンメッキとシアンを使った剥離液の実際の濃度を教えて頂きたいと考えています。これは後で正式にお願いいたしますが、内容に付いては公務員法に則り守秘義務を負った対象物となります。もう一点ですが、これは下水道法による物ではありませんが、シアンの流入等万が一の事故などの際、幹線の途中で止める事による希釈効果を狙う事が出来るという事で、是非速やかな連絡を頂きたいと思います。

また、情報開示という事で不動産業者より情報を求められて開示しています。内容としては、有害物質の使用があったかどうかが多く、メッキ業では有害物質の使用がある為開示されます。開示内容は細かい内容はまだ開示されていませんが、一般的には、事業者の所在地、特定施設の内容、有害物質の使用内容は開示されます。それ以外の内容に付いては文書による開示請求があった時点で個々の判断をしております。

次に、シアンモニターについての経過に付いて報告します。シアンモニターの値が2 ppm以上（流出元では100 ppm以上が予想される）の重大な違反が減ったとは言え3件ほどあります。最近では、7月1日と7月30日に尾久幹線で検知しました。上流の尾久シアンモニターが検知し下流の三河島が検知するという状況ですが、下流ではまったく出ないという訳でもありません。10月21日には尾久シアン反応なしで三河島で検知しました。メッキ業者の方ばかり疑われていると言われ心苦しく思っておりまして、健康保険局を通して保健所でシアンを使っている事業場を洗い出し少数ですが把握しています。また、本局では今後モニターの数を増やし事業場ごと個別にモニターする事も考えています。）

続いて、調査、違反などについて梶原次席よりご説明頂いた。「23区的全メッキ事業場のデータでは、平成3年から平成14年間に年間30事業場くらいで減って来ています。また、

違反率の経過では 20%前後の数値で推移しています。北一管内のメッキ事業場は 113 社うち荒川区では 51 社で年に 1～2 社の割合で減って来ています。管内での違反率では平成 14 年に 15.8%でした。違反項目では、例年銅が多い傾向がありますが、pH、シアン、Cr、Pb など多い。違反数値が小さくても違反は違反ですが、大きな違反は行政処分の対象になります。また酸性の違反については下水道施設に対するダメージが大きいと判断されます。」この後、質疑応答に入ったがホウ素の処理など技術的な問題が残ったまま暫定規制の解除に向かうなどせっぱ詰まる内容のため白熱し、応答して頂く下水道局北部第一管理事務所の方々も国の法律との間で苦慮され

ていた。東京都下水道局としても国土交通省に質問を投げかけているとの事だった。

休憩をはさんで、排水集荷ブロック長 須永操様 飯塚 耕司様への感謝状の贈呈を行った。

続いて平野普三雄常任理事より理事会の報告があり、メッキセンターの補修の内容と必要性について、また排水規制に関して東京都下水道局や国への要望についてお話を頂いた。

環境技術研究所 志賀孝作所長より土壤汚染の調査及び対策について資料と実例を用いて調査手順、内容、土壌の処理について説明を頂いた。

2時間半ほどの時間であったが、水質規制のあり方には疑問を感じ、またこれからの環境行政との関わりを再認識させられた。

(文・上原 裕司)

■品川支部

環境管理強化月間講習会

品川支部(藤田直人支部長)は 10 月 24 日(金)午後 6 時から三明化成(株)会議室で支部員 32 社 34 名が参加して環境管理強化月間講習会を開催した。

植木事業部長の司会で、まず藤田支部長が挨拶し、支部員が減り始め、他支部との合併、合流などを考えないと支部の運営が難しくなってきた。他方土壤汚染対策法などにより仕事を辞めるのも難しい時勢になり、さらに仕事を続けるにも排水規制(亜鉛、硼素など)がきびしくなり、どちらも難しいという話をし、下水道局とケンカせずに、共に協力するようにと述べて、下水道局、住田裕水質規制係長の講習に入った。

パソコンを使って説明する予定だったが、用意したプロジェクターとパソコンの相性が悪かったらしくパソコンが使えず中村ゆかり業務課長にもご迷惑をおかけした。

住田水質係長のお話は、南部管理事務所で見ている業種別の違反状況とともに規制が



あるから処理をするのではなく、環境のために努力をするようにという指導であった。また、PRTTR法によるデータも示された。

トイレ休憩の後、川上洋一副理事長が「土壤汚染の調査および対策について」というテーマで講演があり、わかりやすく土壤汚染および排水処理の対策について話された。

■大田支部

忘年会

大田支部(志田和陽支部長)は12月12日(金)午後6時15分からJ R大森駅東口の大森ベルポートB館1階つきじ「植えむら」で24名が参加して支部忘年会を開催した。

入内島正悟副事業部長の司会により、佐藤富幸事業部長は「今年を振り返ると、支部のみなさんにとって喜ばしいこと、あるいは悲しいことなど色々あったと思う。ただ確実なことは世代交代が進んでいることだと思う。ともあれ、みなさんが元気に忘年会で顔を合わせることができたことは何よりだと思う。今日はフグ料理と飲み放題ということで、時間の許す限りおくつろぎ頂きたい」と開会の挨拶をした。

志田和陽支部長は「今年1年支部員のみなさんには何かとお世話になり感謝申し上げます。10月の環境管理月間講習会は多数のご出席を頂いて有意義に行うことができた。この忘年会が今年最後の支部行事となり、大いに楽しんで頂きたい。来年もよろしくお願い申し上げます」と挨拶をした。

川上洋一副理事長は「人間の歴史は金属とともにあり、その金属の80%は我々が表面処理をしており、我々は誇りをもって頑張ってきた

い」と挨拶し、乾杯の音頭をとった。フグ料理を頂きながらなごやかな歓談が続き、この1年を振り返って特に印象に残ったことを一言づつと、「新しく研究所を作った」「今年も無事暮らせてほっとしている」「病気で苦しい思いをした」「健康のためにゴルフの練習に精を出している」「仕事は徐々に良くなっている」「年末になりようやく仕事が増えてきたが、年間を通してはひまな年であった」「孫が出来て大変忙しい」「明年年明けから6価クロメートを全て3価に変更する」「3価クロメートに対してお客さんから問い合わせがあるが、耐食性等のデータがなく、組合本部としてデータを作って頂きたい」などの発表があった。

また、先の衆院選東京4区小選挙区で当選された中西一善衆院議員が駆けつけて、今後は国政の場で中小企業のスペシャリストとして活動する旨のご挨拶を頂いた。定刻9時となり、内藤雅文常任理事は「混迷の時代であり、中途半端にもの考えるのではなく勘と度胸で仕事をしていこう」と述べて中締めをの音頭をとり、終了した。



■中央支部

環境管理強化月間講習会

中央支部(小嶋摂郎支部長)は 11 月 6 日(木)午後 6 時 30 分から金杉区民館で支部員 29 名が出席して環境管理強化月間講習会を開催した。

新井富保副支部長の司会により、小嶋支部長は「過日の旅行会では多数の参加を頂き、事故もなく楽しく行われたことを報告申し上げます。本日の環境月間講習会では、講師に下水道局の方々、本部から川上副理事長にご協力を頂いた。この厳しい経済環境の中で排水処理管理に苦慮していることと思うが、排水処理をきちんと管理し、問題があれば問題をクリアすれば余計なコストをかけずに適正な処理を行いながら経費の削減を図ることができと思う。問題があれば下水道局さんに相談してほしい。よろしく願い申し上げます」と挨拶した。

下水道局北部第一管理事務所・岩村清文業務課長が挨拶し「日頃は下水道事業にご協力を頂き感謝申し上げます。下水道局は、公共用水域の水質保全、下水道施設の維持管理に取り組んでいる」と 5 つの目標を説明するとともに、①昨年 11 月 19 日尾久幹線に高濃度シアンの流入があり、その対応策を整えていること。②お台場海浜公園で海水浄化実験を行っていることなど説明を頂いた。

福島悠水質規制係長は①情報提供のお願い②事故時の通報③事業場工程採水への協力依頼(12 月予定のホウ素、フッ素の委託調査)④情報開示の動き⑤シアンモニターによるシアン検出⑥尾久幹線シアン応急調査体制の確立等を説明して頂いた。

梶原久廣水質規制係次席は、データに基づいて①平成 3 年度から 14 年度の区部鍍金事業場採水調査結果及び行政指導・行政処分の



経年変化：事業場数が減少するとともに採水件数も減少している。違反率もここ数年徐々に低くなっている。また 14 年度に警告と改善命令の中間に改善指導を新設した。注意、警告、改善指導は行政指導で改善命令は下水道法に基づく行政処分である。②荒川・台東・豊島・文京区内鍍金事業場採水調査結果及び行政指導・行政処分数：前記区部全体の違反率より低くなっている。③平成 14 年度鍍金業違反項目調査：銅、鉛の違反件数が多く、また高濃度違反が目立っている。高濃度違反は行政処分の案件となるので注意して頂きたいとの指摘があった。

川上洋一副理事長は①ホウ素、フッ素等の暫定基準に対する全鍍連運動(延長)状況、②土壤汚染問題、③有機溶剤の取扱、④排水処理施設の維持管理の徹底、⑤ORP、pH 計の設定(pH 試験紙でチェック)、⑥除害薬品の濃度(過剰除害薬品のチェック)、⑦排水系統の混入チェックなどについて講演した。

講習終了後、例会に移り、排水集荷ブロック長への記念品贈呈、本部報告として中村建輝環境委員が環境月間のスローガンについて説明、堀江清広報委員は広報新年号掲載の色紙への協力にお礼の言葉を述べ、例会を終了した。

■足立支部

「あだち地場工業製品フェア」に出品

足立支部(永田一雄支部長)は12月11日、12日の両日、足立区と足立区工業会連合会が主催して足立区区役所内庁舎ホールで開催している「あだち地場工業製品フェア」に出展した。

この展示会は、靴、鞆等の皮革製品、アクセサリーなどの鍍金製品や印刷製品などの地場産業をはじめ、長い歴史と風土の中で育まれ、受継がれた伝統的工芸品やその他の優れた工業製品を一堂に集め展示会を開催し、PRを行う。

また、実際に使ってもらうことで、足立区の工業製品の優秀性への認識を深め、関心を高めていくために、来場者に対して展示された製品を安価な価格で提供し、区内工業製品の普及促進を図ることを目的としている。

足立支部は足立区工業会連合会の構成単位組合として毎年協力し参加している。

今回は通常の装飾めっき製品の展示の他に、めっきに対する理解を深めてもらうため、バ



(子供たちがつめかける)

レルめっきの実験装置、テレビ局が取材しためっき現場の映像などビデオで放映した。また、環境に配慮した垂鉛めっきの6価クロムフリー製品、6価クロムフリーの3価クロムめっきなど展示した。また、めっき析出皮膜で作った人工珊瑚なども展示した。

特に若い女性にはまつ毛カーラー製品は関心が高く、無料で配布した。来場したお子様にはニッケルめっきされたホイッスルを無料配布した。お子様には大変好評で、会場のあちらこちらで笛の音が聞こえた。

来場者も例年になく多く、足立区の優秀な製品を袋いっぱい掲げて買い求め、大変な盛況であった。



■足立支部

環境管理強化月間講習会

足立支部(永田一雄支部長)は、環境管理強化月間ということで11月14日(金)午後6時30分より西新井ギャラクシティー3階会議室に於いて35名が出席し、東京都下水道局北部第二管理事務所高木敦子業務課長、小河原道正水質規制係長を講師として「排水処理の現状と問題点並びに今後の動向」という演題で講習会を行った。

はじめに細井副支部長が、高木、小河原両氏を紹介し、続いて永田支部長が挨拶で「21世紀は環境の時代といわれているが、我々めっき業に携わる者としては排水に対する規制値がますますきびしくなっている。さらに、今後2004年までには新たな規制値が出そうであろう。しかし、この規制値を遵守していくためには一人で考えていては解決できるものではない。そこで、支部員としてのメリットを生かし、積極的に支部会に出席して、みんなで解決法を話し合い、生き残っていこう。」との挨拶があった。

まず、高木課長より下水道構想2001として、1.都民の視点、これには雨水整備(浸水対策・震災対策)、合流式下水道の改善施設の再構築、下水道局行政評価制度の活用効果的な広報・広聴の推進といったもの、2.環境の視点、これは、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの活用、環境会計の活用、地球温暖化防止対策の取り組みなど、そして、3.経営の視点として、コスト削減の取り組み、ISO9000シリーズによる品質マネジメントシステムの活用、IT化



の推進というものがあるとの説明があった。この中で特に環境の視点で、下水処理場は主に家庭排水の処理を前提としているため、工場排水の処理は困難である、つまり、有害物質の流出防止には事業場の方々の理解と協力が不可欠であるという話があった。続いて、めっき業界を取り巻く最近の動きとして、ホウ素・フッ素の排水基準について、また、下水道局からのお願いとして、日頃の排水設備の点検作業、行政と事業者との情報共有、つまり、問題があるときには積極的に下水道局に相談してほしいとの話があった。

次に、小河原係長より、平成元年度から平成14年度までの違反件数、および違反内容についての報告があった。この中で、違反内容のほとんどが鉛であったということが報告された。また、ホウ素・フッ素については、排水処理に膨大な費用がかかるため、工場内での工程改善で排水基準をクリア出来ないものか現在検討中であるとの話があった。最後に、酸性排水は下水道に穴があくため、じゅうぶん注意してほしいとのことといった内容で講習会を終了した。(小島一浩)

■葛飾青年部会

11 月例会



葛飾支部青年部会は去る 11 月 14 日(金)に(株)大和鍍金工場(渡辺徳子社長)のご尽力により経営コンサルタントの講師 2 名を招き講習を行った。

現在の厳しい景気の中、中小企業の担い手であり青年部会会員である我々がこれからどのような点を注意し、考えて会社経営を行っていったらよいか、様々な資料をもとに、今年、会社更生法申請となった足袋で有名な福助の事例を挙げて詳しく、またわかりやすく説明を受けました。

最近では自然災害にともなう企業の危機管理のありかたなど、ブリジストンのタイヤ工場、出光の石油貯蔵タンクの事故等、大企業ばかりでなく中小企業である我々もいざといった時の危機管理の重要性を強くお話されていました。

最後に質疑応答に移り現在のそれぞれの会社における悩みなどを聞いてもらい予定時間を大幅に過ぎているにも拘らず丁寧にアドバイスを受けることができました。

最後になりましたが、今回の講習にあたりご足労を願いました、綿引 実氏((株)アフター 代表取締役)、米澤 恵一郎氏((株)アフター 営業統括本部長)の両名にお礼を申し上げます。

(有)港メッキ工業所 田口 泰輔

■葛飾支部

第 32 回ゴルフ大会

平成 15 年 11 月 9 日(日)、恒例の葛飾支部のゴルフコンペは、茨城県的那珂カントリークラブで行った。当日はあいにくの小雨交じりの天気であったが、2 ホール目には雨はやみ、濃い緑の中に黄色や赤が点在する紅葉の景色は日頃忙しい参加者にとって一時の安らぎを与えてくれた。

成績は下記の通りで、スタート直前カートが動き出し、障害物のセンサーが付いていないカートだったため、一人ぶつかり怪我はなかったが、スタートから運が付いていたせいか、最後には優勝を持ち帰った。

パーティはゴルフ場で行ったが、最近はお酒帯び運転が 20 万円ということもあり運転手はノーアルコール飲みながらもパーティは盛り上がり楽しい一時を過ごした。賞品はかさばらない物と考え、パスネットと甘栗、参加賞も甘栗と栗の量は違っても全員が栗尽くしで、ほくほくで帰った。

GRS HD NET

優 勝	石川英孝	89	14	75
準優勝	西山安治	86	7	79
3 位	太田夢一	96	12	84
ブービー	池田憲治	112	15	97



(優勝した石川英孝氏)

東京都中小企業の景況(11月調査) 東京都産業労働局産業政策部

◎都内中小企業全体の業況は、当月▲35(前月▲39)と4ポイント改善し、3ヶ月連続の改善となった。業種別では製造業が1ポイント、卸売業が8ポイント、小売業が2ポイント、サービス業が4ポイントと、4業種すべてで改善した。前年同月比の売上高は3ポイント改善したが、対前月比の売上高は2ポイント悪化した。当月と比べた向こう3ヶ月の業況見通しは▲15(同▲19)と4ポイント改善し、5ヶ月連続の改善となった。

○都内中小企業全体の業況D I 値は▲35(前月▲39)と4ポイント改善した。4業種すべてで改善し、業種別では製造業が▲32(同▲33)と1ポイント、卸売業が▲29(同▲37)と8ポイント、小売業が▲56(同▲58)と2ポイント、サービス業が▲25(同▲29)と4ポイント改善した。

○前年同月比の売上高は▲36(前月▲39)と3ポイント改善した。業種別にみると、製造業が横ばい、卸売業が5ポイント、小売業が2ポイント、サービス業が5ポイント改善した。対前月比の売上高は▲21(同▲19)と2ポイント悪化した。卸売業の「衣料・身の回り品」は大幅に改善した。

○当月と比べた向こう3ヶ月(11～1月)の業況見通しは▲15(前月▲19)と4ポイント改善し5ヶ月連続の改善となった。業種別では、製造業は▲11(前月▲17)と6ポイント、卸売業は▲10(同▲14)と4ポイント、小売業は▲30(同▲32)と2ポイント、サービス業は▲12(同▲18)と6ポイント改善し、4業種すべてで改善した。

編集後記

中央官庁のホームページをみると、よく整備されていて電子政府を目指している印象を強くするが、他方ではいまだに給与の現金支給を行っているという。11月24日の読売新聞で「国家公務員、4割が現金で給与 電子政府にほど遠く」と報じている。現金支給の場合、現金を取りに行ったり、細かい金額の袋詰めの手間がかかり、振込の方が合理的であるという。報道のように事務処理は電子政府からかけ離れており、どこか一貫性に欠けている印象を受ける。一方、いまNHKテレビが盛んにPRしているデジタル放送は、高画質、高音質、双方向性などが売りで、さらにパソコンに代わる情報伝達機器として、電子政府の推進役にも期待されている。こうした分野の技術革新は激しいが、利用者にとっては新しい

時代の流れにのっていきのが大変である。

広報 12月号

印刷 平成15年12月15日
発行 平成15年12月15日
(毎月1回20日発行 第36巻第12号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島 1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 木村 秀利
印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町 2-1419-4
定価 500円

冬期施設のご案内

舞子後楽園スキー場の利用について

健保組合では、みなさんにスキー等を楽しんでいただくために、舞子高原後楽園観光協会に所属する宿と契約しております。すでに、今シーズン(12/1~3/31)の申込を受け付けしております。契約施設、料金等、詳しくは健保組合までお問い合わせください。

「舞子高原後楽園観光協会に所属する民宿39軒」

・利用料金(1泊2食 大人料金)

平日 5,500円~

休前日 6,000円~

・利用補助(1泊につき。年間2泊まで)

被保険者 3,500円

被扶養者 3,000円

・注意事項

①民宿により利用料金が異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

②補助金の支給は年間2泊までとします。

③幼児については、補助金の対象となりません。

④利用日の7日前からキャンセル料がかかりますのでご注意ください。

民宿をご予約の方にリフト割引券を一緒にお送りしていますのでご利用ください。

なお、日帰りで利用される方は健保組合にご連絡ください。



会員契約している「クラブフジタ」の中にも、スキーが楽しめる

施設が数多くあります。ご家族や会社のグループで利用して、

元気に冬を過ごしましょう。